

2020 年度

# AMDA 年次報告書

2020.4.1 ~ 2021.3.31



令和 2 年 7 月豪雨 (熊本県球磨地方) 被災者緊急救援活動 診察を行う AMDA 医師

**AMDAの「平和」の定義**

「今日の家族の生活と明日の家族の希望が実現できる状況」

平和の阻害要因

- 1. 紛争、戦争
- 2. 災害
- 3. 貧困

阻害要因を克服するプログラム

GPSP プログラム

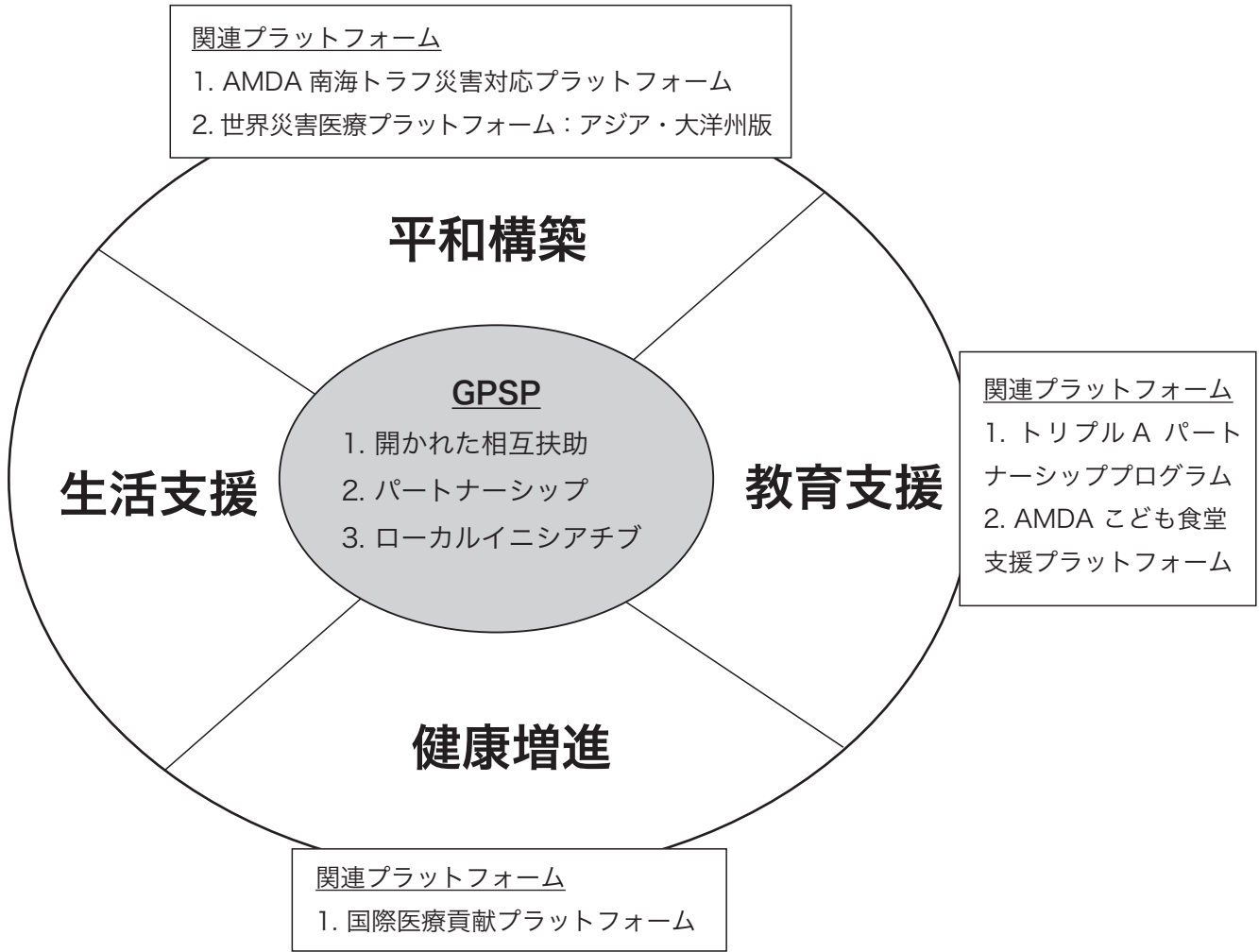
コンセプト

- ①開かれた相互扶助
- ②パートナーシップ
- ③ローカルイニシアチブ

\*GPSPとは、世界平和パートナーシップ(Global Partnership for Sustainable Peace)の略

GPSP 4分野

- ・平和構築
- ・健康増進
- ・教育支援
- ・生活支援



**GPSP プログラム分類表**

平和構築分野	健康増進分野	教育支援分野	生活支援分野
①難民支援事業 a) 緊急支援 b) 復興支援	①プライマリーヘルスケア事業	①グローバル人財育成事業	①有機農業事業
②災害支援事業 a) 緊急支援 b) 復興支援	②医療技術移転事業	②こども食堂支援プラットフォーム事業	
③災害対応プラットフォーム a) 南海トラフ災害対応プラットフォーム b) 災害鍼灸	③医療支援事業		
④災害医療機動チーム	④友好病院事業		

**\* プライマリーヘルスケア (AMDAの考える定義) :**  
 貧困の環境下での健康増進を目的とし、以下3種類の活動を含むものが望ましい。  
 ①住民参加  
 ②知識を広める活動  
 ③社会的及び経済的改善に向けての活動

# 目次

## 平和構築

活動写真	2
1. 災害支援事業（緊急支援活動）	
1) 新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援	4
概要	
日本国内	
インド	
フィリピン	
インドネシア	
アフガニスタン	
カンボジア	
2) 災害支援（緊急支援）	12
災害支援（緊急支援）実施国・時系列一覧	
日本国内	
フィリピン	
インドネシア	
ホンジュラス	
2. 災害支援事業（復興支援活動）	18
日本国内：東日本大震災復興支援活動	
ハイチ	
3. 災害対応プラットフォーム	21
4. 災害医療機動チーム	22
5. 難民支援事業	23
ネパール・ブータン難民医療支援活動	
6. その他	24
オンライン報告会	
日本国内事業	

## 健康増進

活動写真	27
1. プライマリーヘルスケア事業	28
インド・AMDA ピースクリニック	
2. 医療技術移転事業	28
ネパール・AMDA 内視鏡技術移転事業	
3. 医療支援事業	29
ルワンダ学校保健事業	
4. 友好病院事業	30

## 教育支援

活動写真	31
1. グローバル人財育成事業	32
AMDA 中学高校生会	
AMDA 菅波理事長、AMSA Japan オンラインミーティング	
インターン	
2. こども食堂支援プラットフォーム	35
3. その他	36
インドにて AMDA 賞授与	

## 生活支援

第2回日越国際シンポジウム	37
AMDA フードプログラム	37

## 団体概要

AMDA 役員	
連携協力協定調印	
国内の動き	
会計資料	

# 平和構築

## 新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援

平和構築

健康増進

教育支援

生活支援



日本国内 マスク・特定アルコール支援



日本国内 ゴミ袋支援



フィリピン 医療物資支援



インドネシア 病院でのスクリーニングの様子

# 災害支援（緊急支援）

平和構築

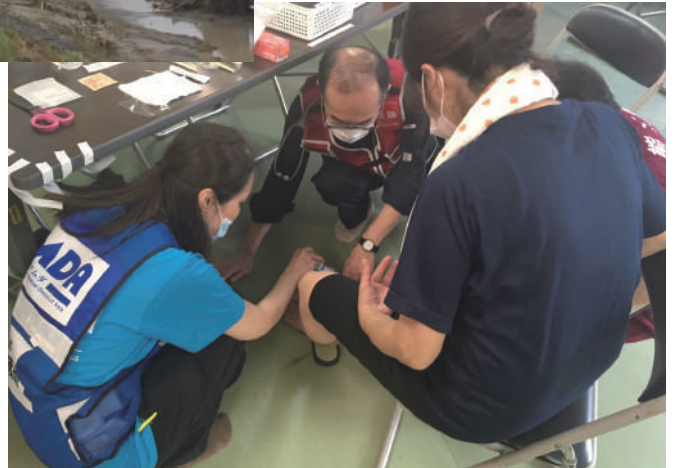
健康増進

教育支援

生活支援



令和2年7月豪雨（熊本県球磨地方）被災者緊急支援活動  
球磨村被災状況



令和2年7月豪雨（熊本県球磨地方）被災者緊急支援活動  
処置するAMDA看護師



フィリピン台風19号被災者緊急支援活動 物資配布



ホンジュラス・ハリケーン被災者緊急支援活動 物資配布



インドネシア・スラウェシ島地震被災者緊急支援活動  
物資を届ける途中の道



インドネシア・スラウェシ島地震被災者緊急支援活動  
発電機などを贈呈

## 1 新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援

### 【概要】

2019年12月に発生した新型コロナウイルスの感染は日に日に深刻な状況となり、2020年3月11日にはWHOが「パンデミック」と宣言する事態となった。2020年度も世界各国で感染が拡大、2021年3月末時点で127,907,855件の感染を確認、死者数は2,797,961人（WHO発表）を記録した。

AMDAは、海外への渡航が困難な状況下にあったが、国外にある各支部と適宜連絡を取り、各国の感染状況など情報交換を行った。複数の国では、政府や自治体によるロックダウン（都市封鎖）が実施され、日常生活に大きく支障が出ているとの報告もあった。AMDA各支部はローカルイニシアチブのもと、必要に応じて医療支援やオンラインを生かした活動など、多種多様な支援活動を実施した。

内、下記6か国での活動についてご報告する。



## 【日本国内】

### 状況

2020年3月ごろから日本ではマスク、アルコール消毒製品、その他个人防护具の不足が表面化し始め、4月に入り事態は深刻化した。災害支援などでご協力いただいている医療機関などから、「物資の入手が困難なため、患者や施設利用者に影響を及ぼさない範囲でやりくりしている。」「マスクが通常の仕入れ値の10倍ほどになった時期もある。」など、現状について伺った。

その後も、感染者増加に伴い、国内の医療機関は逼迫。更に、医療機関や福祉施設などでクラスター（感染者集団）の発生も確認、外部からの医療者派遣なども求められる状況となった。

#### ①マスク・特定アルコールの提供

◇実施場所： 日本国内

◇実施時期： 2020年4月30日～5月上旬

◇物資に関するご協力者様（五十音順、敬称略）：

- ・アイ・エイチ・ディ協同組合
- ・岡山商工会議所
- ・株式会社山貴屋
- ・山崎研磨メッキ有限公司
- ・有限会社カナコーポレーション
- ・AMDA カンボジア支部、AMDA ネパール支部

◇受益者： 42の医療機関・福祉施設など

◇受益者の声：

「新型コロナウイルス感染症の世界的大流行により、今私たちは危機的な状況に陥っています。介護老人保健施設は、高齢のご利用者をはじめとする集団の場であるため、クラスターが発生しないよう日々感染対策の徹底を図っています。そのような折、マスクや手指消毒液などの医療材料が不足し、納品の見通しもつかず対応に苦慮している際に、AMDAより医療材料のご提供を受けることができました。この度のご支援に深く感謝するとともに、日頃からの関わりや互助・共助の大切さを改めて考えさせられました。今後も引き続き徹底した感染対策に取り組み、この状況を職員一丸となり乗り越えていく所存です。」

「ありがとうございました。本日、さっそく該当施設にアルコールを渡してきました。おもちゃなどの消毒にハイターを使わざるを得ない状況なので、大変ありがとうございました。」

◇事業内容：

各医療機関にて必要物資が手に入りにくい状況を受け、AMDAは災害支援の協力協定締結先、そして大規模災害時にご協力いただいた国内医療機関などに連絡。希望された計42カ所にマスク・特定アルコールの物資提供を行った。AMDA自身も物資が手に入りにくい状況ではあったが、入手に際し、様々な企業・団体にご協力いただいた。

#### ②北海道旭川市内医療機関支援活動

◇実施場所： 北海道旭川市内医療機関

◇実施時期： 2020年12月14日～2021年1月4日

◇派遣者数： 4人（看護師含む）

◇事業内容：

AMDAは11月からの北海道旭川市の新型コロナウイルス感染拡大を受け、2015年台湾で起こった粉じん爆発災害支援において、AMDAと一緒に調査のため台湾に出向いた、氏家良人医師（市立函館病院局長）と、12月初旬から連絡を取り始めた。続いて、



氏家医師の関係者を通じて北海道旭川市保健所と連絡。その後、同市保健所の要請を受け、2020年12月14日から2021年1月4日までの間に、看護師など合計4人を現地に派遣した。

同保健所及び保健医療調整本部の調整により、当時クラスターが発生していた北海道療育園の支援に入った。同施設は重度の肢体不自由と重度の知的障がい併せ持つ重症心身障がい者の方々が利用しているため、転院が困難で施設内で療養する方針が決められていた。感染拡大により同施設で働く医療者が一時的に減少する中、AMDAは感染エリアにある感染ごみの処理や床の清掃などの環境整備や感染エリアの利用者さんが日常生活を送るうえで必要な食事などの介助を行う看護支援を行った。

尚、2月2日には北海道療育園におけるクラスターが終息した、と同施設よりご報告いただいた。

### ③ゴミ袋の提供

◇実施場所： 日本国内

◇実施日： (第1回目)2020年12月22日、(第2回目)2021年3月1日

◇物資に関するご協力者(敬称略)： 日本技研工業株式会社

◇受益者： 11の医療機関・福祉施設など

◇受益者の声：

「本日、チャック付きポリ袋の寄付をいただきました。当法人では、給食部門や薬剤部門などその他多くの場面で使用することができ大変助かります。この度は誠にありがとうございました。」

「たくさんの「ゴミ袋」をご寄付いただきありがとうございました。職員以下とても喜んでおり、早速、給食、検査、外来、病棟などが利用しており、病院の日常業務だけでなく、災害時にも十分活用させていただきます。本当にありがとうございました。」

◇事業内容：

日本技研工業株式会社様より、「医療従事者の方々に頼るだけでなく、自助共助の努力を行い一緒に困難を乗り越えたいと考え、感染リスクの高い使用済みマスクなどのゴミの処理にお役にたてればとポリ袋を寄付させていただきたい。」と、販売されている「様々な種類のゴミ袋」の支援のお話をいただいた。AMDAは、2020年11月末よりAMDA南海トラフ災害対応プラットフォームに参加されている医療機関を中心に声掛けを実施。結果、第1回目(12月)には684ケース、第2回目(3月)には1,349ケースを、お申し出いただいた計11団体に贈呈した。



### ④中華人民共和国駐日本国大使館様よりマスクの提供

◇実施場所： 日本国内

◇実施日： 2021年2月4日

◇物資に関するご協力者(敬称略)：

中華人民共和国駐日本国特命全権大使

さめじま病院(佐賀市) 病院長代行 原野 和芳

◇受益者： 10の医療機関・福祉施設など

◇事業内容：

2021年1月、中華人民共和国駐日本国大使館様よりマスクの譲渡について話を伺った、さめじま病院病院長代行 原野和芳様から、「各々の地域医療で新型コロナウイルス感染症の最前線に立つ医療者に、この善意のマスクを少しでも届けることが出来れば。」と、AMDAにマスク支援についてご相談があった。合計11,260枚を中華人民共和国駐日本国大使館様より贈呈いただき、2月、マスクを含む様々な物資を、希望する10の医療機関に寄贈した。



AMDA 事務所でのマスク送付準備の様子



## 【インド】

### 状況

2020年1月にインド国内で初の感染者が確認され、それ以降、感染者が増加していた。3月24日からは急遽全面的な外出規制が敷かれ、工場をはじめ、オフィス、公共の交通機関などが操業停止となり、日雇い労働者をはじめ、大勢の人が生活の術を失った。6月に段階的に規制は緩和されたものの、深刻な感染拡大は続いている。

#### ①マスク、手指消毒剤などの提供による感染症対策支援

- ◇実施場所： 首都デリー、グルガオン
- ◇実施時期： 2020年3月初旬、6月
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： AMDA インド支部
- ◇受益者数： 1,150人
- ◇事業内容：

2020年3月初旬、インドでマスクの着用と手指衛生（手洗い、手指消毒）が推奨され始めたこの時期に、AMDA インド支部は「危険ゾーン」と呼ばれる感染リスクの高い地区で働く労働者にマスク50枚および手指消毒液を配布した。その際、インド支部のミナクシ・ジョシ事務局長から感染予防と手指衛生の他、アユルヴェーダ伝統医学医師の視点から今後予測されるストレスや困難を乗り越えるための心の持ち方などについて労働者に説明した。

その後、3月末の全面的な外出規制、そして約2か月後に規制は段階的に緩和されたものの、新型コロナウイルス感染者数は増加傾向だった上、職場復帰などにより人々の外出機会は増えていたため、AMDA インド支部は追加で物資支援を行うことを決定。布製手作りマスク1,100枚、アルコール度80%の消毒液25リットルとハンドソープ15リットルを購入し、新型コロナウイルス感染症予防に関する指導パンフレットを200部用意した。同支部の運営方針の1つである環境と資源保護の観点から、使い捨てマスクの利用は環境に負荷を強いるため、感染者と日々対峙している医療従事者を除いて“使い捨てマスクは必要ない”という考えに基づき布製マスクを選択した。

準備したマスクやパンフレットは人口密集地域である首都デリーとグルガオンで配布した。ガソリンスタンド、警察署などを支援先とした他、清掃員やガードマン、露天商、労働者、公園に集まっている人も対象とした。加えて、身寄りのない高齢者や精神的障がいを持つ高齢者ら500人が入居する老人ホームには、手作りマスクとパンフレットの他、消毒液とハンドソープを寄付した。

#### ②労働者家族支援

- ◇実施場所： 首都デリー
- ◇実施時期： 2020年3月25日～約3か月
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： AMDA インド支部、同支部事務局長ミナクシ・ジョシ
- ◇受益者数： 4人
- ◇事業内容：

3月に急遽全面的な外出規制が敷かれ、大勢の人が生活の術を失った。交通機関も一時停止したため、都市部に住む人たちは徒歩で故郷を目指した。その中には子連れの家族や、女性、妊婦の姿もあった。

AMDA インド支部のミナクシ・ジョシ事務局長は、2歳半の子供を連れた労働者家族から助けを求める連絡を受けた。徒歩での帰郷を試み、55キロの地点まで歩いたものの、疲弊と気温の上昇により立ち往生してしまったという。そこで、AMDA インド支部はこの家族が生活できるよう食料や調理用のガスコンロなどを用意し、3月25日から約3か月間、一時的シェルターとして支部の事務所を提供した。一家は定期的に提供された食料と調理器具で自炊し、日々の食事を賄った。加えて、ロックダウンによる外出制限により直接、面会ができなかったため、インド支部は定期的に事務所に電話を入れ、この家族の日々の様子を伺った。

インド政府が州境を超える国内移動の制限を緩和した6月末、一家は礼状を残して去っていった。そして、インド国内では再び人々の大移動が始まった。



### ③オンラインセミナー

- ◇実施場所： オンライン
- ◇実施時期： 2020年11月～
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： AMDA インド支部
- ◇受益者数： 91人
- ◇事業内容：

2020年11月から12月がお祭りシーズンのインドでは、この時期に新型コロナウイルス感染者数が急増。その中で、アユルヴェーダ伝統医学医師でもあるミナクシ・ジョシ AMDA インド支部事務局長は、いかにコロナ禍において健やかに過ごすかということを中心に無料オンラインセミナーを始めた。第1回目は「コロナ禍における感染症予防」、第2回目は「花粉症に悩まされる春を健康に過ごすには」について行われた。セミナーには、日本とインドから計91人が視聴した。

「初めて聞くこともあり、日々の生活に役立ちます。もっと知りたいと思いました。」という視聴者からの声を受けて、今後もこの活動を継続予定である。



### ④衣類の提供

- ◇実施場所： グルガオン
- ◇実施日： 2020年11月14日
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： AMDA インド支部
- ◇受益者数： 58人
- ◇事業内容：

インドの三大祭のひとつと言われ、毎年盛大に祝われるディワリ。家族や友人が集まって、道端には屋台が立ち並ぶのが通常だ。しかし、コロナ禍で祝うディワリは祭りとは思えない程、閑散としていた。

AMDA インド支部は、ディワリ祭に大人服と子ども服あわせて計58枚とお菓子を各労働者グループの代表者に配布した。コロナ禍であるため、配布時には会場に入る人を制限し、受け取った服は各代表者から労働者に渡していただけるようお願いした。

## 【フィリピン】

### 状況

フィリピンにおいて新型コロナウイルス感染症による陽性者数も死者数も日々増加。3月17日より、フィリピンの都市部を中心に強化されたコミュニティ隔離措置（Enhanced Community Quarantine）が取られており、日常生活に必要な不可欠な店、医療機関は開いているものの、基本的に全員自宅隔離となり、外出が困難な状況となるなど、日常生活に支障をきたす事態となっている。

### ①医療機関・組織に対するマスクを含む個人防護具などの支援

- ◇実施場所： フィリピン国内
- ◇実施時期： 2020年3月15日～5月上旬
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA フィリピン支部、AMSA（アジア医学生連絡協議会）ビコール大学医学部支部、地元ボランティア

- ◇受益者： 27の医療機関・組織
- ◇受益者の声：

「AMDAの個人防護具・物資支援にととても感謝している。コロナ禍において最前線で戦う医療従事者への配慮がととてもありがたい。」

「ありがとうございます。これが落ち着いたら、今度はAMDAを助けたい。」



## ◇事業内容：

AMDA フィリピン支部は、2020年3月から5月にかけて、同支部と繋がりのある27の医療機関・組織を対象に、新型コロナウイルス感染症の影響により不足していたサージカルマスク、フェイスシールドを含む個人用防護具、エアロゾルボックス\*、トイレ用品などを提供した。

今回、提供した個人用防護具の1つに、顔全体を覆うフェイスシールドがある。これは、AMDA フィリピン支部医師の自宅近くに住む近所の人や子どもたちからの協力を得て、400個を手作りしたもので、完成したフェイスシールドは他の物資と共に医療機関などに寄贈した。

\* 個人用防護具が不足する中、挿管などの際に出るエアロゾル粒子から医療者を守るための透明な箱。

## ②オンライン無料医療相談

◇実施場所： オンライン

◇実施時期： 2020年3月23日～4月17日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA フィリピン支部、Global Health Pharmacy Network、ブローケンシャー大学薬学部、AMSA（アジア医学生連絡協議会）パーペチュアルヘルプ大学ジョネルタ財団医学部支部、医療・非医療ボランティア

◇受益者数： 973人

◇受益者の声：

「私の場合、祖母の健康状態を気にしていましたが、心配が解消されました。登録手続きや医師の予約に1日かかるものの、緊急を要する相談でない限り有用です。的確な処方箋を出すために症状に対するスクリーニングも徹底していました。関わっている医師、スタッフとともにとても友好的で精通していました。とても感謝しています。」

「このオンライン無料医療相談はボランティアの医療従事者による素晴らしい活動だと思います。新型コロナウイルス感染症により定期的な受診ができない中、診察が必要な人にとって役立つサービスです。」

◇事業内容：

2020年3月、AMDA フィリピン支部は、交通機関の影響などで医療へのアクセスが制限されている同じ国民の声に耳を傾けるため、協力団体とオンライン無料医療相談を行うことを決定した。手順は、まず相談者自身にウェブサイトで登録してもらい、相談者の基本情報（既往歴、健康状態および懸念すること、もしあれば胸部レントゲン写真、検査結果、処方箋など）を相談チームに共有してもらった後、必要に応じて、ボランティア医師、ソーシャルワーカー、カウンセラー、看護師と相談者を電話でつないで、医療相談にのった。

当時、フィリピンでは、ルソン地域全体で「強化されたコミュニティ隔離措置」が課されていた。日常生活に必要な不可欠な店、医療機関は開いているものの、自家用車以外の交通手段がない人は医療機関へのアクセスも限られている上、普段かかっているクリニックも閉鎖している場合もあった。そのため、新型コロナウイルス感染症に直接関係ない、慢性疾患などに対する相談も多く受け、約1か月間の相談件数は973件に上った。なお、4月7日より、フィリピン保健省による24時間対応の電話無料医療相談窓口が設置されたため、AMDA フィリピン支部は4月17日でオンライン無料医療相談を終了した。

## ③ウェブセミナー

◇実施場所： オンライン

◇実施時期： 2020年5月30日～6月27日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA フィリピン支部、AMSA（アジア医学生連絡協議会）サンペドロ大学ダバオ校、グローバルヘルス・ファーマシー・ネットワークなどの地元協力団体多数



◇受益者数： 798 人

◇受益者の声：

「ジレンマはあるものの、オンライン診療は治療を必要とする人々のニーズに対応できる新たな可能性を持っていることを学んだ。21世紀以降も続くであろうデジタル時代に医療を受けられない人達への補完的役割を果たすことだろう。」

「目に見えない新型コロナウイルスに対して、自宅でも職場でも今までとは違う予防策を理解し実行しなければいけないことが分かった。」

「新型コロナウイルス感染症が流行する中、人々が職場に戻る時期だからこそ、予防できる疾患は予防接種で防ぐことが大切。そうすることで欠勤を減らし、結果的には職場の生産性を保つことができることが分かった。」

◇事業内容：

AMDA フィリピン支部は多数の地元団体と協力して新型コロナウイルスに関するウェブセミナーの開催を決定した。このセミナーはコロナ禍で世界が直面する危機的状況への対応について、各専門分野の枠を超えて考えることを目的とした。毎週土曜日に5回シリーズで行われたウェブセミナーは、前半は演者が各週の議題について話し、後半は、もう1人の専門家が発表内容について質問し、演者と議論する形式をとった。加えて、医療者に限らず一般の方にも参加いただき、各セミナー後アンケートにもご協力いただいた。

【ウェブセミナー議題と演者】

5/30 - 『遠隔医療（オンライン診療）について知っておくべきこと』

(Telemedicine by Dr. Eugene Macalinga)

6/06 - 『新たな基準に従って安全な職場にするには』

(Return to workplace by Dr. Anna Sofia Fajardo)

6/13 - 『新型コロナウイルス感染症に罹患した医師の視点から』

(Perspectives of a COVID-19 Survivor by Dr. Carmina Fuentesbella)

6/20 - 『メンタルヘルス』 (Mental Health by Ms. Leah Mae Jabilles, RSW)

6/27 - 『ワクチンの最新動向』 (Vaccines Update by Dr. Lemuel Delos Reyes)

## 【インドネシア】

### 状況

2020年、インドネシアでも新型コロナウイルス感染症が拡大し、インドネシア大統領は感染者の早期発見を目的に、一斉検査の実施を指示する事態となった。

### ①医療機関支援

◇実施場所： 南スラウェシ州マカッサル市

◇実施時期： 2020年3月25日～7月30日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： AMDA インドネシア支部

◇受益者数： 1,824人

◇事業内容：

AMDA インドネシア支部が位置するマカッサル市内でも感染状況は深刻なため、同支部は医療支援として同市内の病院に医師らを派遣。派遣者は他のボランティアらと防護服を着用の上、来院者を対象に問診やレントゲン、血液検査、PCR検査などのスクリーニングを実施した。その他、同支部が所有する救急車（2008年岡山大学より寄贈）による患者搬送、14日間の新型コロナウイルス陽性者のモニタリング、更に新型コロナウイルスや手洗いに関する指導などを行った。

7月30日までに検査や治療を行った患者は1,824人、そのうち85人の陽性を確認することができた。また、必要データを南スラウェシ州に共有するなど、自治体と連携し、新型コロナウイルスへの対応を行った。



## 【アフガニスタン】

### 状況

新型コロナウイルス感染拡大にともない、3月から半年間、大学を含むすべての学校、ホテル、商店などが営業を自粛。テレビやラジオでは感染予防を呼びかけるメッセージが発信された。

#### ①日本アフガニスタン友好病院における医療支援活動

◇実施場所： 首都カブール

◇実施時期： 2020年3月～

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA アフガニスタン支部、日本アフガニスタン友好病院

◇受益者数： 1,210人

◇事業内容：

AMDA アフガニスタン支部長モハメド・ナウム・ラヒミ医師が中心となり、2009年に、首都カブールに設立した日本アフガニスタン友好病院では、1日平均100から150人の患者が訪れていたが、この期間は60人から70人に半減していた。このような状況下で、同支部長は「AMDAの理念である相互扶助を実行している。必要としている人がいるなら、助けたい、援助の手を差し伸べたい、という気持ちで活動している。人の命は大切。このような時だからこそ支援するべき。」と考え、支部として同病院を訪れる患者に対する支援活動を実施した。

都市封鎖措置期間、診察代の支払いが困難な患者には150から200アフガニ（約250から300円）する診察代を無料にし、市場で高騰していたマスク、石鹸、手袋を配布した。並行して、病院を訪れる患者に家庭でできる感染予防を口頭で伝え、アフガニスタン公衆衛生省が発行する新型コロナウイルス感染症対策の紙を渡すなど、AMDAアフガニスタン支部は正しい情報の発信にも力をいれた。加えて、病院を訪れた新型コロナウイルス感染症疑いの患者は最寄りの政府系医療機関に紹介した。2020年度はのべ1,210人（内183人は政府系医療機関への紹介）を支援した。



## 【カンボジア】

### 状況

感染拡大の状況は続くも、9月には生徒数の制限や感染防止対策を講じるなどの条件下で一部の学校の再開を政府が許可。また、政府は市民にマスクの着用や手洗いの習慣化、アルコール消毒、ソーシャルディスタンスを推奨している。

#### ①コロナ禍におけるメンタルヘルスと看護に関するワークショップ

◇実施場所： 首都プノンペン

◇実施日： 2020年11月6日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA カンボジア支部リティ支部長、保健省関係者、国立病院関係者、学術関係者（登壇者）

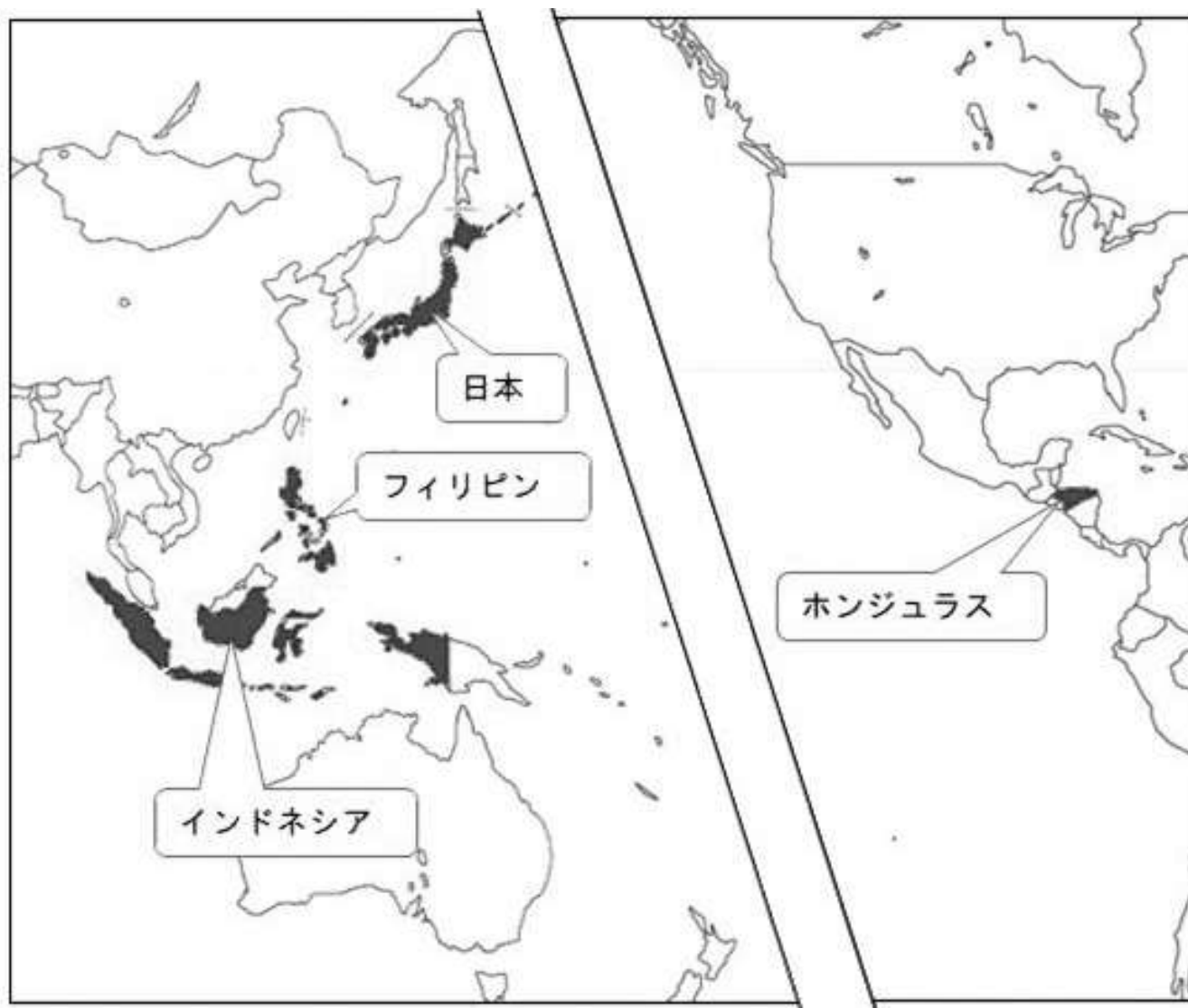
◇受益者数： 100人

◇事業内容：

2020年11月、AMDA カンボジア支部は国内有数の看護学科を持つチェンラ大学と協力し、コロナ禍におけるメンタルヘルスの維持と看護師の新たな役割について論じるワークショップを開催した。この催しは対面とオンラインの双方向で行われ、それぞれ30人の学生と70人の学生からなる合計100人程度が参加。スピーカーには、保健省関係者、国立病院関係者、学術関係者が登壇して発表を行った。終了後、AMDA カンボジア支部は、大学で学ぶ看護学生には個人防護具を、大学には自動消毒液ディスペンサーなどを寄付した。



## 2 災害支援（緊急支援）



【災害支援（緊急支援）時系列一覧】

支援活動	活動期間	活動実施地域
令和2年7月豪雨（熊本県球磨地方）被災者緊急支援活動	'20/7/6 ~ '20/8/6	熊本県球磨郡球磨村、人吉市、球磨郡相良村
インドネシア・スラウェシ島鉄砲水災害被災者緊急支援活動	'20/7/17 ~ '20/7/19	南スラウェシ州北ルウ県
フィリピン台風19号被災者緊急支援活動	'20/11/2 ~ '20/11/27	カタンドゥアネス州ヴィラク町・サンミゲル町
フィリピン台風22号被災者緊急支援活動	'20/11/14 ~ '20/11/30	カガヤン州パニャブランカ町・エンリレ町・ツゲガラオ市 イサベラ州イラガン市・トゥマウイニ町
ホンジュラス・ハリケーン被災者支援活動 (AMDA-MINDS 合同)	'20/11/17 ~ 継続中	①緊急支援：テグシガルバ市、エル・パライス県テウパセンティ市 ②復興支援：エル・パライス県テウパセンティ市、テクシグア市
インドネシア・スラウェシ島地震被災者緊急支援活動	'21/1/16 ~ '21/1/20 '21/1/29 ~ '21/2/4	西スラウェシ州マムジュ県、マジエネ県

## 【日本国内】

### ■令和2年7月豪雨（熊本県球磨地方）被災者緊急支援活動

◇実施場所（活動開始順）： 熊本県球磨郡球磨村、人吉市、球磨郡相良村

◇実施時期： 2020年7月6日～8月6日

◇派遣者（派遣順）： 佐藤 拓史／医師／東亜大学医療学部教授・AMDA 理事・AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム運営委員会副委員長、橋本 千明／看護師／AMDA 職員、高 和子／看護師／AMDA 職員、山田 章博／調整員／岡山県赤磐市職員（AMDA 本部にて研修中）、吉井 治／鍼灸師・柔道整復師／AMDA 熊本鍼灸チーム、岩尾 智子／調整員・看護師（米国資格）／AMDA 職員、平野 晃／調整員・柔道整復師／AMDA 緊急救援ネットワーク・天理教道竹分教会、頼藤 貴志／医師／岡山大学大学院医歯薬学総合研究科疫学・衛生学分野 教授・岡山県感染症対策委員会委員、岡本 美南／保健師／AMDA 緊急救援ネットワーク、灰床 宗真／鍼灸師／AMDA 緊急救援ネットワーク、後藤 英二郎／鍼灸師／AMDA 熊本鍼灸チーム・AMDA 緊急救援ネットワーク

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： AMDA 本部、岡山県総社市、岡山県赤磐市

◇受益者数： 207人（活動した避難所3か所の最大避難者数と相良村での自宅訪問件数合計）

◇受益者の声：（鍼灸・柔道整復師による施術を受けた方）

「洪水で全てを流され帰る家もない状況の中で、鍼灸師の優しさに施術中涙が出そうになった。」

「施術を受けてみたかった。限界でイライラしていたけれど、やっと時間ができた。」

◇事業内容：

7月4日早朝、熊本県、鹿児島県に大雨特別警報が発令された。その後、熊本県・球磨川が氾濫し、同県南部球磨地方を中心に洪水が発生した。被害は甚大であり、熊本県内での死者は65人、行方不明者2人、全半壊など住宅への被害は7,781棟に上った（11月2日時点熊本県発表）。この深刻な被害状況を受け、熊本県熊本市からの連携支援要請を受けた総社市より、AMDAへ医療チーム派遣について要請があった。翌7月6日、AMDAは総社市・赤磐市・AMDA合同チームとして、医師1人、看護師2人、調整員1人を人吉市に向けて派遣した。

7月6日から8月6日の活動期間中に、熊本県球磨郡球磨村・人吉市と球磨郡相良村で避難所における医療支援・物資支援、戸別訪問を主とした保健師支援を行った。また、人吉市内で被災しながらも8月再開に向け準備を進めていた「小規模多機能ホーム菜の花」へ物資支援を行った。

#### ①避難所における支援

◇実施場所（活動開始順）： 球磨郡球磨村内「さくらドーム」「寿泉寺」、人吉市立第一中学校

◇実施時期： 2020年7月6日～7月19日

◇事業内容：

7月6日、医師1人、看護師1人からなるAMDAチームは、第1回人吉球磨地域災害時保健医療調整会議に参加した後、球磨村の避難所である「さくらドーム」にて活動を開始。看護師1人と調整員1人が合流し、同避難所と自主避難所「寿泉寺」にて、緊急対応

の必要性がないことを確認した後、球磨村の方が避難されていた人吉市立第一中学校で診療・健康相談など避難所での医療支援活動を10日まで継続した。活動中、熱中症の症状なども確認したことから、経口補水液を準備し、感染対策用の医療資材（マスク、手袋、医療ガウン、フェイスシールド）も併せて避難所に提供した。

また、長期化する避難所生活におけるニーズの変化に対応し、7月11日から19日まで鍼灸師・柔道整復師計4人が避難者への施術を行い、のべ21人が鍼灸を、のべ64人が柔道整復師による施術を利用した。コロナ禍での施術であったことから、岡山県感染症対策委員会委員である医師からの感染対策に対するアドバイスを受けながら準備、施術を行った。身体的な痛みの緩和に加えて、被災当時の恐怖や悩みを吐露できる場ともなった。また、地元の鍼灸院・整骨院に引き継ぐ際には、地元の先生のご協力に加え、AMDA災害鍼灸ネットワークメンバーには遠隔からご尽力いただいた。



## ②保健師支援

◇実施場所： 球磨郡相良村

◇実施時期： 2020年7月12日～7月22日

◇事業内容：

7月12日、人吉保健所長から相良村への支援依頼を受け、午後から医師1人、調整員1人が相良村教育長のご協力の下、相良村役場を訪問し保健師及び職員から村の状況を伺った。村の一部が前日(11日)の大雨で再度浸水したものの、約200世帯の避難状況、健康状態などが確認できていない、そして保健師は通常業務と並行して、被災世帯の把握など多くの業務を抱えていることが分かった。

AMDAは保健師1人を追加派遣し、翌13日より22日まで、村保健師、外部支援保健師とともに戸別訪問を行った。また、猛暑が続く中、家の片付けをされている方々がいることから、役場の方と相談の上、経口補水液などの飲料3箱を提供。また、保健師より避難所へのシャワーチェア設置についてご相談があったことから、AMDAは1台購入、保健師より後日、設置完了のご報告があった。



## ③「小規模多機能ホーム菜の花」への物資支援

◇実施場所： 人吉市内「小規模多機能ホーム菜の花」

◇実施時期： 2020年8月5日、6日

◇事業内容：

2018年西日本豪雨災害被災者緊急支援活動にてご協力いただいた岡山県倉敷市真備町にある「小規模多機能ホームぶどうの家真備」より、人吉市内にある小規模多機能施設について相談を受けた。この施設は被災し全壊、8月の再開に向け準備を進めているものの物資が足りないという状況を伺った。AMDAは「小規模多機能ホーム菜の花」への物資支援を決定。現地で手に入りにくい滅菌ガーゼや包帯、ビニールエプロン、手袋、支援企業様から寄贈いただいたアルコールや肌着などを準備し8月5日に発送、6日に到着を確認した。被災された方々に利用いただき、大変喜ばれた、と現地からご報告をいただいた。



## 【フィリピン】

### ■台風19号被災者緊急支援活動

◇実施場所： カタンドゥアネス州ヴィラク町・サンミゲル町

◇実施時期： 2020年11月2日～11月27日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA フィリピン支部、AMSA（アジア医学生連絡協議会）ジョネルタ支部、カタンドゥアネス州立大学

◇受益者数： 764世帯

◇受益者の声：

「私たちの住んでいる地区まで支援を届けてくれてありがとうございます。AMDAは大変な状況にある被災者に手を差し伸べてくださいました。本当に助けが必要な時にありがとうございます。」

◇事業内容：

11月1日早朝、勢力の強い台風19号がフィリピン東部カタンドゥアネス州に上陸。翌2日、AMDA フィリピン支部からの連絡を受け、AMDAは緊急支援活動を行うことを決定。通過後数日は台風の影響で



活動地にむけ悪路を進む支援チーム



一般の電話やインターネットなどコミュニケーション手段が遮断され、メディアや SNS で流れる情報が全てだった。

現地協力団体として医学生団体である AMSA ジョネルタ支部とカタンドゥアネス州立大学も加わり、被災地のニーズに沿って物資を購入。それらを小分けにし、各世帯に配布しやすいよう現地協力団体が中心となり準備した。支援物資は米、イワシや肉の缶詰、焼きそば、インスタント麺、ビーフン、ビスケット、チョコ、キャンディーなどの食料品と石鹸。活動期間中、物資の配布予定地への道が地すべりにより通れず、支援の対象地域を変更したり、後続の台風による影響から支援の日程を変えざるをえない状況にあったものの、現地協力団体らによって、4 度に渡り食糧・物資配布を実施。カタンドゥアネス州ヴィラク町とサンミゲル町に住む計 764 被災世帯に物資を届けた。そして、支援活動は 11 月 27 日をもって終了した。

## ■台風 22 号被災者緊急支援活動

◇実施場所： カガヤン州ペニャブランカ町・エンリレ町・ツゲガラオ市、イサベラ州イラガン市・トゥマウイニ町

◇実施時期： 2020 年 11 月 14 日～ 11 月 30 日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA フィリピン支部、フィリピン開発安全女性委員会 (WiNDS)、ルソン緊急支援チーム (LCAT)、AMSA (アジア医学生連絡協議会) フィリピン支部、フィリピン市町村保健官協会 (AMHOP) イサベラ州支部、他多数の現地協力団体

◇受益者数： 医療支援 365 人、物資支援 1,433 世帯

◇受益者の声：

「この辺りの、中心部から離れた地域には、特に支援を必要としている人がたくさんいます。」

◇事業内容：

11 月 11 日夜、台風 22 号がフィリピン・ルソン島に上陸し、通過後もルソン島全土で大雨や洪水被害が相次いだ。AMDA フィリピン支部とフィリピン開発安全女性委員会 (WiNDS) の要請により、AMDA 本部は緊急支援活動を行うことを決定。協議の上、ルソン島北部のカガヤン州・イザベラ州で医療・物資両面から支援を行えるよう準備を開始した。

AMDA フィリピン支部と現地協力団体であるルソン緊急支援チーム、AMSA フィリピン支部など学生が中心となり行った緊急支援活動は、11 月 20 日から 22 日までにカガヤン州ペニャブランカ町、イサベラ州イラガン市とトゥマウイニ町内の計 6 地区で食糧や石鹸などの衛生用品を 566 世帯に配布した。コロナ禍であったため、AMDA フィリピン支部メンバーが病院を離れられない中、地元の大学生が中心となり物資の購入、準備、自治体との調整、運搬から配布まで行った。

WiNDS と現地協力団体であるフィリピン市町村保健官協会イサベラ州支部が中心となり行った緊急支援活動は、事前に地元自治体との調整を重ね、支援が届いていない地域を優先して実施した。11 月 28 日と 30 日の 2 日間で、カガヤン州エンリレ町、ツゲガラオ町、イザベラ州トゥマウイニ町内の計 4 地区で活動し、のべ約 70 人のボランティア (医師、看護師を含む) からなる現地チームが、米などの食糧、衛生用品、バケツなどを 867 世帯に配布した。また、医療支援活動では 365 人を診察し、薬の処方が必要な慢性疾患の方、上気道感染症や皮膚感染症の方が多くみられた。

活動後、AMDA フィリピン・ナバロ支部長は「今回もまた緊急支援活動を通じて、私たちはローカルユニシアチブの重要性を改めて認識し、国境を越えた相互扶助の意義を力強く訴えることができました。この中に私達フィリピン人の誇りであるバヤニハン (相互扶助) の精神が息づいていることは言うに及びません。」と話した。



## 【インドネシア】

### ■スラウェシ島 鉄砲水災害被災者緊急支援活動

◇実施場所： 南スラウェシ州北ルウ県マサンバ

◇実施時期： 2020年7月17日～7月19日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA インドネシア支部、AMSA（アジア医学生連絡協議会）ムスリム大学支部（医師5人、医学生5人）

◇受益者： 地方防災局、モスク（避難所として使用）、被災地域数カ所、医療機関など

◇事業内容：

2020年7月13日、南スラウェシ州にある北ルウ県マサンバにおいて、鉄砲水による水害が発生。地域住民をはじめ、家屋や交通機関までもが濁流に流された。インドネシア防災庁及び国家救命隊の情報によると、4,202世帯が被災し、21人が犠牲となり、156世帯は住む場所を失った。水害、そして水が運んできた土砂により、浸水や全壊となった家屋も多く見られた他、村と村を繋ぐ橋が分断されるなど、住民の生活に甚大な被害が出た。

合同チームは、17日より被災地のマサンバの避難所や救護所にて医療支援を実施し、被災者の方々へ必要な処置や処方などを行った。また、物資が足りていない避難所へは、毛布、紙おむつなどの日用品や食料の支援も合わせて行った。

また、公的病院を含む地域の主要な医療機関では、水害の影響で適切な医療サービスの提供に困難が生じていた。そのため合同チームは、現地医療機関及び地方防災局へ医薬品や衣服、毛布を支援した。また、アンディ・ジェンマ病院（Andi Djemma Hospital）、ヒクマ病院（Hikmah Hospital）などの現地医療機関に対しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための個人防護具や消毒液の配布を行った。



### ■スラウェシ島 地震被災者緊急支援活動

◇実施場所： 西スラウェシ州マムジュ県、マジエネ県

◇実施時期： 2021年1月16日～1月20日 / 1月29日～2月4日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA インドネシア支部、ムスリム大学医学部、AMSA（アジア医学生連絡協議会）ムスリム大学支部

◇受益者数： 60人以上

◇事業内容：

2021年1月15日未明（現地時間）、インドネシア・スラウェシ島西部を震源とする、マグニチュード6.2の地震が発生。インドネシア国家防災庁の発表によると、この地震による死者数は91人、行方不明者数3人、重傷者数404人（1月22日時点）、避難者数は91,657人（1月28日時点）を記録した。

AMDA インドネシア支部は、発生翌日の16日、ムスリム大学医学部、AMSA ムスリム大学支部やその他協力団体らと、医師4人を含む総勢16人から成る第1次医療チームを結成し、被災地に向け出発。17日にはマジエネ県にて、医師による被災者の診察を開始した。また、被災者への物資支援も実施。チームが被災地域を訪れ、食料や毛布、赤ちゃん用おむつなどを配布した。車両で入れない村には徒歩で赴き、時には2キロ先にある地域まで歩き、活動を行った。カビラアン村では家が損壊したためマットを配布し、更に停電も起きていたため、チームが活動用に持っていた発電機セットを贈呈した。

その後の1月29日、同支部と同大学医学部は、医師3人、学生9人から成る第2次医療チームをマムジュ県及びマジエ



ネ県に派遣。第1次チーム同様、避難所などにて被災者の診療や食料・衣類・医薬品・個人防護具などの物資支援を行う他、被災した子どもたちの精神的ケアとして、話をして元気づけるストーリーテラーチームも今回参加。避難所内のテントに集まった子どもたちは、ストーリーテラーの話に大声で笑い、大きな声でストーリーテラーとのかけあいに応える姿も見られた。

## 【ホンジュラス】

### ■ハリケーン被災者支援活動（AMDA-MINDS 合同）

#### 概要

◇実施場所： 首都テグシガルパ市、エル・パライス県テウパセンティ市、テクシグア市

◇実施時期： （緊急支援）2020年11月17日～12月24日  
（復興支援）2021年2月～継続中

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA ホンジュラス支部、テウパセンティ市緊急対策委員会、テウパセンティ市サラディーノ地区保健委員会、保健所

◇事業内容：

2020年11月、ハリケーン「エタ」と「イオタ」が相次いでホンジュラスを直撃。死者数99人、466万人以上が被災した（2020年12月3日ホンジュラス政府発表）。駐日ホンジュラス共和国特命全権大使アレハンドロ・パルマ・セルナ閣下からの支援要請を受け、AMDAは特定非営利活動法人AMDA社会開発機構（以下、AMDA-MINDS）と合同での緊急支援活動を決定した。

12月に現地での緊急支援のニーズがないことを確認し、緊急支援活動は終了した。しかしながら、ハリケーンによる被害は深刻であり、その後も現地協力団体らと協議を重ね、AMDA-MINDSと合同で、エル・パライス県にて現在、復興支援を実施している。

#### ①緊急物資支援

◇実施場所： テグシガルパ市、エル・パライス県テウパセンティ市

◇実施時期： 2020年11月17日～12月24日

◇受益者数： 91世帯と10人

◇受益者の声：

「家の壁が崩れ避難してきたが、何とか直して元の生活を取り戻せるように頑張りたいと思っている。このたびの支援にとっても感謝している。」

◇事業内容：

AMDA-MINDSの現地スタッフは、現地協力団体らと情報収集の上、11月から12月にかけて、首都テグシガルパ市内の2カ所の避難所に身を寄せる家族に赤ちゃん用おむつやミルク、掃除用具などの物資を配布した。更に、ホームレスの方々にとっての避難所であり、麻薬中毒者の更生施設としても使用されている老人ホーム、そして孤児院にも清掃用具や石鹸、洗剤など提供した。

また、AMDA-MINDSの活動地域である、同国南部のエル・パライス県での被害状況や支援ニーズも確認。テウパセンティ市緊急対策委員会と連絡・調整し、12月7日から8日にかけて、同市内で支援が行き届いていない被災した50世帯に食料、毛布、衛生用品のセットを配布した。同時に、乳幼児のいる25世帯には、おむつなどもあわせて支援した。

#### ②復興支援

◇実施場所： （農業技術支援）エル・パライス県テクシグア市

（小学校屋根改修）エル・パライス県テウパセンティ市



◇実施時期： 2021年2月～継続中

◇受益者： 農業技術支援 60世帯及び1小学校 / 小学校屋根改修 生徒37人、先生1人

◇受益者の声：

(アグア・カリエンテ村の小学校教員より)

「このような支援をしていただけたらとは想像していなかったので、感激しています。水がないので子どもたちはトイレを我慢したり、十分に手が洗えなかったりして、衛生上の危険がずっと悩みの種でした。今回ホースをいただき、これでトイレや、手も洗えるようになります。子どもたちの栄養のために、学校菜園も頑張ってお世話をお願いします。」

◇事業内容：

### 1) 農業技術指導 (～2021年8月終了予定)

テクシグア市アグア・カリエンテ村では、今回のハリケーンにより、収穫間近であった主要作物がほぼ全滅した。もともと、この村は乾燥地帯のため、作っている作物が少なく、食糧確保が困難な状況であることを受け、被害を受けた農地回復と同時に、乾燥地帯でも多様な作物を栽培できるよう、2月より農業技術指導を実施。60世帯の農家らは、木を伐採しない、化学肥料ではなく有機肥料を用いるなど、自然の力を生かした「災害に強い菜園づくり」の説明を受け、7カ月間に渡る作業スケジュールに従い、各世帯で土壌を整え、苗木や種を植え、植物の葉など自然由来の材料を用いて除虫剤を作り、より良い農作物ができるように努めている。



また、同村内の小学校でも菜園づくりを開始。同小学校には水が全くなく、15分ほど歩いて川に水を汲みに行く状況であったため、AMDA-MINDS 現地チームは水源から水をひくためのホースを寄贈した。このホース贈呈により菜園での農作物栽培だけでなく、それまでトイレを我慢したり、手洗いが十分にできていなかった子どもたちの衛生状態改善が期待される。

### 2) 小学校屋根の改修 (～2021年5月完了予定)

テウパセンティ市サラディーノ地区にある小学校は、ハリケーンの激しい雨で屋根が損壊、教室が水浸しになった。今後、降雨により子どもの学習の妨げとならぬよう、復興支援として屋根の改修を決定。2021年2月には同地区保健員会と保健所、大工らとミーティングを実施、材料の確保などの準備を開始した。そして3月下旬、改修作業に入った。



## 2 災害支援事業 —復興支援活動—

【日本国内】

### ■東日本大震災復興支援活動

#### 概要

◇実施場所： 岩手県上閉伊郡大槌町、宮城県仙台市

◇実施時期： 2011年3月12日～継続中

◇事業内容：

2011年3月に起きた東北太平洋沖大地震により東北地方の太平洋沿岸地域は甚大な被害を受けた。急性期は災害緊急救援活動を行い、その後復興支援活動に切り替え、2020年度も支援を続けている。

① 医療・健康支援：AMDA 大槌健康サポートセンター事業

② 生活・自立支援：仙台市震災ホームレス支援

## ① AMDA 大槌健康サポートセンター事業

◇実施場所： 岩手県上閉伊郡大槌町

◇実施時期： 2011年3月12日～継続中

◇従事者： 佐々木 賀奈子 / AMDA 大槌健康サポートセンター長、教室事業講師 2人

◇受益者数(2020年度)： 延べ人数教室事業 171人、鍼灸 760人

◇受益者の声： (教室参加者より)

「復興支援ありがとうございます。月2回さをり織り教室で仲間と交流するのが楽しみです。これからも続けていきたいと思います。」

◇事業内容：

東日本大震災以降ますます人口は減少傾向にあり、もともと15,000人くらいの人口が2020年度は11,570人までになり人口流出が続いている。AMDA 大槌健康サポートセンターでは鍼治療後に、3密を避け1対1でリハビリとして体をほぐす体操、ストレッチなどを行っている。また、さをり織り教室、木工教室は、屋内で距離を保ちながら、月2回継続して行っている。経験と



ともに生徒さんの作品の質も上がっており、生徒さんが個人で販売するようになっている。郷土料理教室は新型コロナウイルス感染の影響により今年度は休止している。震災から丸10年という節目であったが、東北の関係者から、「コロナ禍でつらいときこそ人のふれあいが大切。」として教室事業を継続していく。

## ② 仙台市震災ホームレス支援

◇実施場所： 宮城県仙台市

◇実施時期： 2013年～活動中

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： NPO 法人仙台夜まわりグループ

◇受益者数(2020年度)： 路上生活者(仙台市内) およそ 85人

自立者支援(仙台市内) 78人

◇事業内容：

10年前の東日本大震災は多くの人々が被害に遭い、様々なものを失った。復興途上のところ、今度は新型コロナウイルス感染の影響により職を失い、生活困窮者、路上生活者が増え、仙台市内だけで100人を超える人たちがいる。仙台夜回りグループが電話相談や炊き出し・大人食堂での相談を受けたのは約600件。そのうちの多くはシェルターや法律やDVを専門とする協力団体へつないだ。スタッフは、できる限りの感染対策をして仙台市内中心部を巡回し、当事者たちの安否確認をしながら、おにぎり、みそ汁、バナナ、使い捨てカイロなどを手渡ししていき、大人食堂や炊き出しに参加を呼び掛けている。この他、路上生活者たちが早朝、公共の公園周辺の清掃ボランティアに参加し社会とのかかわりをもっている。



大人食堂では、参加者は体温チェック、手洗いをした上で3密をさけて食料配布という形で開催した。AMDA から贈呈したマジックライス100食分、岡山米50kgも使用し、炊き出しにおいて、普段はカレーライスを配給するが、新型コロナウイルス感染防止のため弁当配布とした。また、準備した弁当が足りなくなるほど集まったホームレスの人たちに、ゲンゼラブアース倶楽部様からいただいた肌着35枚を含む衣類や日用品を提供した。同グループは、最近路上生活に陥ってしまったという初参加者から特別定額給付金の申請方法についての相談にも対応して、ホームレスの支援にあたっている。

また、準備した弁当が足りなくなるほど集まったホームレスの人たちに、ゲンゼラブアース倶楽部様からいただいた肌着35枚を含む衣類や日用品を提供した。同グループは、最近路上生活に陥ってしまったという初参加者から特別定額給付金の申請方法についての相談にも対応して、ホームレスの支援にあたっている。

## 【ハイチ】

### ■こどもの家 & AMDA 合同事業～ハイチの子ども支援事業～

◇実施場所： 西県ポルトープランス郊外

◇実施日： 2020年6月12日（2019年12月より継続中）

◇従事者：

- ・マック・ケビン・フレデリック（AMDAハイチ支部長、歯科医）
- ・ジョシアン・アンドレ（AMDAハイチ支部、看護師）
- ・キャミー・タイソン（AMDAハイチ支部）
- ・ジュスタン・ジュニア・ジョーゼフ（フランソワ孤児院ディレクター）

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDAハイチ支部、森田 佳奈子（こどもの家プロジェクト代表）

◇受益者数： 約100人（三ヶ所の孤児院に暮らす孤児合計）

◇受益者の声：

「皆さんが来てくれて本当に嬉しい。次は綺麗な服が着たい。」

◇事業内容：

AMDAハイチ支部は、元AMDA調整員の森田佳奈子氏が代表を務める『こどもの家プロジェクト』と協力して、国内三ヶ所の孤児院に対し、食糧支援などを行う合同事業を実施している。2020年6月12日、一行は首都ポルトープランス近郊にあるフランソワ孤児院を訪問。孤児院に暮らす子ども達を対象に健康診断を行い、食糧を寄付した。現在対象となっている三ヶ所の孤児院では、いずれも国内経済の低迷と政局の混乱により食糧の調達に苦労している。子ども達の栄養改善が喫緊の課題となる中、一部の施設では、「自分達で野菜を作れば食糧の足しになるかもしれない。」という児童のアイデアが発端となり、家庭菜園を設置して、このような事態に対応している。



## ■ 歯科検診事業

◇実施場所： ニップ県フォンデネグレ

◇実施日： 2021年2月27日

◇従事者：

- ・マック・ケビン・フレデリック（AMDA ハイチ支部長、歯科医）
- ・ジャメソン・シルヴァンス（歯科医）
- ・ジョジアン・アンドレ（AMDA ハイチ支部、看護師）
- ・ジュスタン・ジュニア・ジョーゼフ（フランソワ孤児院ディレクター）

◇受益者数： 48人

◇事業内容：

2021年2月27日、AMDA ハイチ支部が毎年恒例の歯科検診を同国フォンデネグレにある救世軍病院 Bethel Clinic で実施。コロナ禍に加えて、翌28日には首都ポルトープランスで現職大統領に対する大規模なデモが予定されていたが、そんな中、48人の市民が検診に訪れた。フレデリック支部長を含むスタッフ3人（歯科医2人と看護師1人）が対応にあたり、口腔内の洗浄、齲歯症や抜歯、歯茎の病気などの治療を行った。幸いにも新型コロナウイルスの感染が疑われる受診者はおらず、「こんな状況であっても、私達はやるべきことをやった。」と語るフレデリック支部長の言葉に、自身の強い信念が表れていた。



## ③ 災害対応プラットフォーム

### ■ AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム

#### 概要

◇実施場所： 岡山県、香川県、徳島県、高知県

◇実施時期： 通年実施

◇事業内容：

AMDA では、発生すれば死者30万人、300万人が被災するとも言われる南海トラフ巨大地震への取り組みとして、「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム」を2015年に設立。巨大地震が発生した場合に、孤立しやすい四国の徳島県・高知県に10チームが迅速に支援活動を行えるよう、自治体、医療機関、企業などが一体となり準備を進めている。連携協定を結ぶ自治体や医療機関、経済団体と緊密に連携し、以下などを実施。

①食糧などの事前備蓄

②支援に駆けつける医療機関と支援に入る徳島県・高知県の自治体との事前マッチング、事前交流

2020年度は、新型コロナウイルス（COVID-19）で感染拡大を避けるため多くのイベントや訓練などで人が集まる事が延期や中止となった。

新型コロナウイルス対策を行いながら開催された徳島県の避難所設営訓練には、徳島県在住のAMDA職員が参加した。

#### 【訪問】

日程	訪問先 * 敬称略
	感染拡大予防のため、訪問なし

## 【訓練】

日程	訓練名	活動内容
8/31 ~9/1	徳島県主催 コロナ禍の「避難所運営・体験訓練」	(8月31日) ①講義「過去に例をみない『複合災害』への備え」 ②備蓄用の食事の受け取りと食事 ③避難所設営訓練 - 段ボールベッドやパーテーションの設置 (9月1日) ①備蓄用の食事の受け取りと食事 ②体調不良者の隔離部屋 ③シェイクアウト訓練

※県内参加者限定で新型コロナウイルス対策を行いながら参加

## 【事前交流】

日程	訪問者	活動内容
	感染拡大予防のため、事前交流なし	

## 【勉強会など】

日程	名称	活動内容
6/12	高知大学学生とオンライン交流	ZOOM を利用し、オンライン会議を開催 高知大学学生のサークル（お助け隊）と南海トラフについての交流会
11/18	徳島県阿波市との協定改定	ZOOM を利用し、オンライン会議を開催 協定書の見直し（コロナ対応で活動拠点の変更）
1/27	徳島県美馬市保健所とオンライン交流	医療法人芳越会理事長 林秀樹先生の呼び掛けで AMDA の活動を美馬市保健所とも共有
3/18	徳島西部災害医療代表者 Web セミナー参加	議題：コロナ禍における多職種連携を考える 内容： ①それぞれの組織の弱み強みを共有し、自己紹介と交流の場（一般公開せずに行うことで、弱みも共有しやすい） ②徳島県西部圏域におけるコロナワクチン接種状況の共有

## 4 災害医療機動チーム

### ■ AMDA 災害医療機動チーム

◇実施場所： 中国地方

◇実施時期： 通年実施

◇事業内容：

災害が起きた際、活動場所や活動資機材の確保、そして医療チームの宿泊や食事などのロジスティック面の確保が、医療チームの大きな課題の1つとなっている。それらを解決し適切な支援を被災地へ届けるために、様々な企業や団体からなる「AMDA 災害医療機動チーム」を2019年に発足。各協力企業・団体から移動健診車や移動調剤車、宿舎



や炊き出しチーム、食料用冷凍車、電源車、給水車、ごみ収集車など様々な車両や物資、人員が現地に向かい、医療チームと共に被災地の支援にあたる。AMDA は各協力企業や団体と、より迅速で適切な支援開始を目指し、調整を進めている。

2020年度は、7月3日にNPO法人あゆみ様（鳥取市）と、更なる支援活動への協力体制の確立のために連携協定を締結した他、新たに鷹取醤油株式会社様（岡山県備前市）も機動チームに加わり、より充実した支援を被災地に届けられるように準備を進めている。



#### 【参加企業・団体】※順不同、敬称略

岡山県赤磐市、瀬戸健康管理研究所、十字屋グループ、株式会社 MIZUHA、株式会社長崎鉄工所、NPO 法人あゆみ、AMDA 支援農場、株式会社永燃、株式会社道満石油店、株式会社智商ロジシステム、株式会社研美社、株式会社ソーデン社、民間救急サービスはやぶさ、キャンピング エキップメント ストア、おかやまコープ、株式会社イシダ工務店、株式会社 GFJ、一般社団法人バクチャー普及研究協議会、鷹取醤油株式会社

## 5 難民支援事業

### ■ネパール・ブータン難民医療支援活動

◇実施場所： ジャバ郡、モラン郡内難民キャンプ

◇実施時期： 1992年～2020年12月

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA ネパール支部

◇受益者数（2020年度）： 5,000人

◇事業内容：

1990年代にブータン内で民族間紛争が拡大、多くのネパール系ブータン人がネパール国内の難民キャンプに移住した。1992年、AMDA ネパール支部はジャバ郡ダマック市でこの難民に対する医療支援事業を開始。3年後には UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)より正式な委託業務となり AMDA が本格的に主導、「AMDA ダマック病院」でブータン難民及び地域住民への医療サービスの提供を開始した。

2001年、同支部はブータン難民キャンプでの一次保健医療を UNHCR から委託され、各キャンプに活動拠点を設置、最大約11万人の難民を対象にプライマリヘルスケアサービス(一次診療サービスの他、妊婦健診、HIV/AIDS 対応、公衆衛生、栄養補助食料の供給など)を実施してきた。

難民人口は減少したため、ネパール政府と UNHCR はキャンプ内での活動について協議を重ね、医療サービスに関する委託された事業のうち、一次診療サービス及び HIV/AIDS 対応については2018年12月に終了した。その後、AMDA ネパール支部と UNHCR のプロジェクト連携協定の元、AMDA ネパール支部が UNHCR から資金を得て2019年1月から難民がキャンプ内での医療サービスを行っていた。AMDA ネパール支部はキャンプ内の障がい者の社会・生活保護に関する活動を中心に実施した。また、難民が公立の医療施設で容易に医療を受けられるように彼らをアシストした。この活動は2020年12月31日で終了した。これをもって、AMDA ネパール支部のブータン難民医療支援活動のすべてが完了となった。



子どもに栄養剤を提供する様子

## 6 その他

### ■東日本大震災 10年 AMDA オンライン交流会

「想いを未来へ かだって（一緒に）つながろう！」

◇開催場所： AMDA 本部・オンライン (ZOOM・YouTube Live)

◇開催日： 2021年3月26日

◇参加者・団体（発表順）： 菅波 茂 / AMDA 理事長、難波 妙 / AMDA 理事、佐々木 賀奈子 / AMDA 大槌健康サポートセンター長、坂本 正人 / 復興グルメ F-1 大会運営事務局長、AMDA 中学高校生会 2 名、大久保 彩乃 / 一般社団法人 Tsubomi 事務局長、菅谷 安美 / 一般社団法人 Tsubomi 理事、金高 さおり / おかやまコープ全体理事、古舘 笑海 / 東日本国際奨学金受給者、協力自治体、活動関係者、ボランティア、一般参加者 合計 38 人

◇参加者（派遣者・東日本関係者・一般者）の声：

「10年経った今、私たちにできることは何かを考えると、やはり何度でも東北に足を運び復興していく姿から多くを学び今後の災害に備える。」

「震災当時、高校生だった世代が、これから復興の要となっていくことに大いに期待している。」

「今日まで全国の数えきれない方々に支えられ、復旧から復興へ少しずつ歩んでいます。震災もいつ起こるか予想がつかえません。できる限りの想定を今のうちからみんなで考えていきましょう。」

「震災から 10 年・・・何回だって立ち上がりましょう。東北に対する思い、被災者に対する思いは変わりません。」

◇事業内容：

東日本大震災発生から 10 年。新型コロナウイルスの影響を受けオンラインにて、AMDA の緊急支援・復興支援事業に関わる東北の関係者、活動関係者、ボランティアから、復興に向けた 10 年の取り組みについて報告していただいた。AMDA 菅波理事長からは、「災害の経験者の教訓と経験からくる知恵が生かされる。困ったときはお互いさまの精神で災害支援を続ける。東北被災地商店街に呼びかけて東北の物産販売をオンラインマーケットで販売できるしくみづくりをする。コロナ禍で一同に集まれない状況が続く中、オンライン交流を通してお互いが離れていても応援できる形を整える。」などの提言もあった。東北の三陸沿岸商店街と徳島県ホウエツ病院とともに南海トラフ災害支援の支援体制を築いていくといった意見も出た。また、東北の復興支援に 10 年間毎年欠かさず東北を訪問し、支援をしてくださったおかやまコープ様から「伝えたい！忘れない！このつながりを大切に。」のメッセージと支援の様子についてもご報告いただいた。



### ■フィリピン台風 19 号・22 号被災者緊急支援活動オンライン報告会

◇開催場所： AMDA 本部・オンライン (ZOOM)

◇開催日： 2020年12月12日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA フィリピン支部、フィリピン開発安全女性委員会 (WiNDS)、フィリピン市町村保健官協会 (AMHOP) イサベラ州支部、カタンドゥアネス州立大学、ルソン緊急支援チーム (LCAT)、AMSA (アジア医学生連絡協議会) ジョネルト支部

◇参加者数： 38 人

## ◇事業内容：

2020年11月にフィリピンで発生した2つの台風(台風19号・22号)に対して、AMDAは緊急支援活動を実施した。AMDAフィリピン支部、現地協力団体のご協力により、コロナ禍でも被災地に支援を届けることができた。

実際にフィリピンで活動した、フィリピン人の現地協力者4人から活動を応援いただいている日本の皆様へ、オンラインで活動報告を行った。参加者からは、「台風直撃後の被災地の様子はどうだったか?現在、被災地はどんな様子か?」「被害が広範囲にわたる中でどのように被害状況を把握し、どこを優先的に支援すると決めたか?」「どのような継続的な支援が必要か?」と質問があり、発表者から「台風が過ぎ去った後の被災地は爆弾が落ちた後のようだという人もいる。私たちの強い復興力により、全壊した家の再建も始まっている。」「町役場が持っているデータをもとに、全壊した世帯から優先的に支援した。」「主な産業が農業である私たちの地域では、農家への支援が必要だと思う。」とそれぞれ返答があった。

オンラインでの開催となった今回は、参加者が全国から集まり、フィリピンの現地主導による災害支援活動を知っていただく機会となった。



## ■医療資機材の寄贈

◇実施場所： 日本国内

◇実施時期： 2021年3月中旬

◇物資に関するご協力者(敬称略)： カクモト商会

◇受益者数： 以下国内5団体(敬称略)

- ・特別養護老人ホームシルバーピアさくら樹
- ・特定非営利活動法人TICO
- ・公益社団法人岡山県鍼灸師会
- ・朝日医療大学
- ・AMDA

海外： インド、ルワンダ、モンゴル

◇受益者の声：

「この度は、たくさんの医療器具や資材をご寄付頂きありがとうございました。私たち「特定非営利活動法人TICO」は、長年に渡りザンビア共和国やカンボジアにおいて、医療支援および農村開発を行っております。(～中略～)ご寄付いただいた医療器具や資材の提供先はまだ決まっておりませんが、現地では、非常に高価でかつ入手が難しいものばかりで、現地スタッフには大変喜んでいただけるものであり、彼らのモチベーションの向上に寄与することは間違いありません。

コロナ禍で、現在は我々のスタッフが渡航することが難しい状況ですが、渡航を再開した際には現地へ持参したいと考えております。もうしばらく時間がかかりますが、今から、彼らの喜ぶ顔が目に見えます。(いただいた感謝状より一部抜粋)」

「この度は公益社団法人岡山県鍼灸師会への備品の寄付をありがとうございました。災害支援活動を通じて備品を使用して欲しいとご高配に改めて感謝致します。今後の活動に備え、備品の寄付はととても助かります。いただきました品々は(公社)岡山県鍼灸師会の災害支援活動やおかやまマラソンなどのフィールドにおいて有効に使わせていただきます。」

◇事業内容：

2021年2月、医療資機材を扱うカクモト商会様より、AMDAへ医療資機材のご寄付のお申し出があった。カクモト商会様で大事に保管されてきた物資を有効に使用させていただきたいと思い、仕分けをさせていただき、国内外の支援プロジェクトで協力をいただいている複数の団体へ寄贈した。今回のご提供に際し、カクモト商会様より、「亡くなっ



ご寄付いただいた医療器具などの送付準備の様子

た父も生前行っていたボランティアと重なる「誰かの役に立つ」という形で在庫を活かしたことを感慨深く思っております。お手伝いいただいた AMDA の皆様には心から感謝し、これからも 1 人でも多くの命が助かるよう祈る思いです。」とお話いただいた。

## ■その他

日程	プロジェクト名	活動場所 (2020 年度)	受益者数 (2020 年度)	活動内容
7/6	「見放さない、その命！AMDA 魂の連携。総社市から全国へ！～西日本豪雨災害被災者支援活動の教訓と災害医療機動チーム構想～」出版	全国・岡山県 総社市役所・AMDA	2,000 冊 (発行部数)	【活動内容】2018 年 7 月に発生した「西日本豪雨災害」、その時に AMDA 及び岡山県総社市が行った支援活動についてまとめた書籍を、発生から 2 年経った 7 月 6 日に出版した。片岡聡一・総社市長や、「被災された方々のために何かできないか」と集まった高校生、今まで総社市が災害支援を行ってきた全国の自治体の中で、総社市に支援に駆けつけた自治体、AMDA の支援活動にご参加いただいた「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム」参加医療機関などにも寄稿を依頼した。加えて、翌年 2019 年 10 月の「令和元年東日本台風(台風 19 号)」の被災者支援活動での協力団体らも含め、計 73 人に災害支援活動の様子やとにもご尽力いただいた深い想い、そしてこれから発生が予想されている南海トラフ災害などの大規模災害に対しての対応など、各々に執筆いただいた。
12 月頃	駐日大使館・関係機関お米贈呈	駐日大使館・総領事館など	21 か所	【活動内容】毎年、AMDA 海外支部がある国や地域、AMDA が活動を行っている国の駐日大使館及び関係機関を訪問、1 年間の活動報告と、感謝の意として岡山県新庄村の有機米を贈呈している。しかしながら 2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により訪問がかなわず、21 か所の大使館や領事館含む関係機関へ、有機米をお送りするとともに、活動報告書の送付など、書面で活動を報告した。また、在大阪フィリピン総領事館については、コロナ禍で困窮している場所へご寄付されたいとのご意向をいただいたため、そのお米は岡山県内のこども食堂 4 団体へ贈呈をした。

# 健康増進



インド AMDA ピースクリニック  
野菜支援



ネパール内視鏡技術移転事業  
オンラインミーティング



ルワンダ学校保健事業  
ケガをした児童に処置を施す学校看護師

平和構築

健康増進

教育支援

生活支援

# 1 プライマリーヘルスケア事業

## ■インド・ブッダガヤ AMDA ピースクリニック母子保健事業

- ◇実施場所： ビハール州ブッダガヤ地区
- ◇実施時期： 2009年11月～継続中
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： AMDA 本部、AMDA ピースクリニック（以下 APC）
- ◇受益者数（2020年度）： 延べ360人
- ◇受益者の声：

「ここで定期的に行われる健診の日には欠かさず来ている。お腹にいる赤ちゃんや私の体に異常はないか診てもらっている。コロナ禍でも無料健診を継続的に実施している AMDA ピースクリニックの活動にとっても満足している。家族や友人と話す際も AMDA ピースクリニックが話題になることがあるが、彼らも同じ意見だ。ブッダガヤの経済状況は良くはないが、1回目の都市封鎖時に比べると状況は少しよくなった。支援が必要な私たちに手を差し伸べてくれる AMDA には本当に感謝している。」

### ◇事業内容：

2020年度はコロナ禍での活動となった。インド東部ビハール州ブッダガヤにある APC は 2020年3月末から6月上旬に行われたインド政府による都市封鎖により、開院以降初めて3か月の閉鎖を余儀なくされた。7月下旬に約2週間に渡って行われたビハール州による都市封鎖の影響も加わり、インドの妊産婦の生活は大変厳しい状況だった。例年、世界遺産のマハボディ寺院があるブッダガヤには世界中から観光客が集まるため、地元の人たちの多くは観光業と建築関連事業で生計を立てていた。しかし、都市封鎖の影響で観光客も途絶え、新規建築事業もない中、経済的に生活が苦しいという訴えを妊産婦から耳にするようになった。

そこで、6月に活動を再開した APC は、感染対策を徹底したうえで、日々食べるものに困窮していた妊産婦家庭に野菜支援を開始した。加えて、閉鎖中も毎月、場所を変えて行っていた妊産婦健診は同月に APC で行えるようになった。一方、感染リスク軽減のため、以前行っていた健康教育（母親学級）、栄養プログラム（週1回軽食を提供）は現在も休止している。スタッフによる妊産婦宅訪問も中断しているが、APC に登録している妊産婦からの相談は電話で受け付けている。最後に、2017年度からグンゼラブアース倶楽部様より提供いただいているショーツを、APC 利用登録時と出産報告時に各2枚ずつ、妊産婦に提供している。



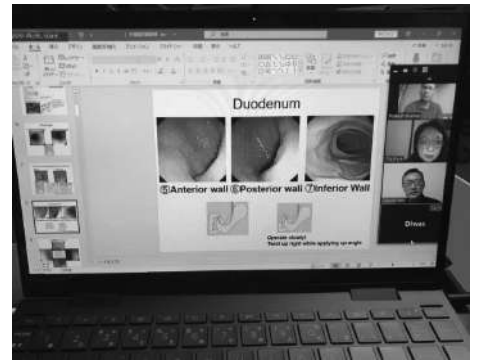
# 2 医療技術移転事業

## ■ネパール・AMDA 内視鏡技術移転事業：オンラインによるミーティング

- ◇実施場所： オンライン
- ◇実施日： 2021年2月14日
- ◇参加者：（AMDA 本部）佐藤 拓史 / 医師 / AMDA 理事、難波 妙 / AMDA 理事、アルチャナ・シュレスタ・ジョシ / AMDA 本部・ネパール担当  
（AMDA ネパール・ダマック病院）プラカッス病院長、ナビン元病院長、ディワス内視鏡医
- ◇事業内容：

AMDA は、2016年からダマック病院の内視鏡技術向上を目指して日本、ネパール両国での研修事業を実施。2016

年には、岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業の一環として、ダマック病院の内視鏡医ディウス医師が、岡山済生会総合病院で3か月間、内視鏡の技術研修を受け、2018年、2019年には、佐藤拓史医師がAMDAダマック病院に出向き上部消化管内視鏡検査の技術的指導、病変の診断などについて指導を行った。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、計画を中止。未だ渡航の見込みがたたないため、2021年2月14日に関係者でオンラインミーティングを行った。



まず、ディウス医師より、ダマック病院の現状についての情報共有と問題点について報告。2020年の内視鏡施行数は355件。2021年に入ってこれまで上部消化管内視鏡検査を80件行い、胃炎、食道炎、胃潰瘍、食道静脈瘤、十二指腸潰瘍、癌などを診断。そのうち5件については、ディウス医師自身が食道静脈瘤破裂にともなう出血に対し結紮術を行ったこと、加えて十二指腸狭窄、胃がんについては、常時、佐藤医師のアドバイスをうけて診断にあたっていたことも報告。また、これまで発見した5件の胃がんは全て高齢者の進行癌。出血などの緊急時に対応できる医療器材、スタッフの技術などの環境が未だ整っていないこと、加えて地域の人たちの内視鏡に対する知識や理解がまだまだ得られていないことなどの問題点も共有された。

佐藤医師は、出血時の止血術など多くの質問に答えたあと、内視鏡診断についての指導を行った。ディウス医師より佐藤医師に診断を求めて送られてくる画像について、撮影方向や接近度などの問題点を指摘し、より明確に撮影するための撮影方向と診断のポイントなどを細かく指導した。

また、2019年11月に台湾保健省よりAMDAダマック病院に大腸カメラが寄贈された。2020年2月に佐藤医師が現地にて初期研修から指導をする予定だったが、新型コロナウイルスの影響のため実施できなかったため、今後の方針について検討。一日も早く大腸カメラの検査を始めたいというネパール側に対し、佐藤医師は大腸カメラのリスクを十分に理解する必要性を強調した。

ネパール側からは、佐藤先生の実践的な技術研修が一日も早く実現し、ダマック住民のために多岐にわたる内視鏡技術の向上を願っているとの期待が寄せられた。佐藤医師は、地元の内視鏡医師が癌を早期に発見できるよう、内視鏡の安全性と技術向上のために一日も早くダマックでの研修を実現させたいと、今回のオンラインミーティングを締めくくった。

### ③ 医療支援事業

#### ■ルワンダ学校保健事業（学校健診プロジェクト）

- ◇実施場所： キガリ州キガリ
- ◇実施時期： 2020年4月～継続中（看護師支援2020年11月～）
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

ルワンダの教育を考える会（医師1人（ルワンダ事務局長）、看護師1人（学校看護師））

◇受益者数： 351人

◇受益者の声：

「これまで、時々心臓がどきどきして、思うように勉強ができませんでした。でも、同じ症状が起きたら、今は看護師さんのところへ行くようにしています。看護師さんは、私を休憩できる場所に連れて行って下さり、動悸がおさまるまで一緒にいてくれます。動悸がおさまると、私は教室に戻ります。私達の健康にとって、看護師さんはとても大切です。ありがとうございます。」

「学校に看護師さんがいることは本当に重要なことだと思います。なぜなら、僕達は看護師さんが提供してくれる様々なケアを受けることができるからです。看護師さんは薬をくれたり、ケガの手当てをしてくれたりします。この前、腕



をケガした時、家に帰るかわりに看護師さんのところへ行きました。マッサージをしてもらい、今はもう大丈夫です。おかげで、気持ちよく過ごせています。ありがとうございます。」

#### ◇事業内容：

AMDAは2015年以降、ルワンダでの学校保健に関する活動に協力している。現地パートナーの「ルワンダの教育を考える会」が運営する、首都キガリにあるウムチョムイーザ学園をモデル校とし、年に1度小児科医師を派遣し知識・技術協力を行ってきた。現地の要請に応じて実施する学校を増やしていき、2019年度は4校で学校健診を実施した。2020年度は、新型コロナウイルスの蔓延が影響し、現地の学校は長期にわたって休校となり日本からの人材派遣も実施できなかった。

ウムチョムイーザ学園では、看護師が活動していたこともあったが継続的な看護師常駐が難しい状況が続いていた。休校していたこの学校も2020年11月から再開となり、児童に対しての手洗いやソーシャルディスタンスの指導、検温の実施などに対応できる看護師を常駐させ、感染防止をしながら学校教育を円滑に進めたいという「ルワンダの教育を考える会」の意向を受け、看護師の活動をAMDAの業務委託事業として支援することにした。

役割としては、疾病の見極めと予防に関する情報提供、6年生を対象として性教育を通じて望まない妊娠を避け自分の人生を選択できるようにする支援、児童と教師を対象とした衛生教育（口腔衛生、手洗い、入浴など）、緊急時におけるケガの手当てや身体的不調のケア、保護者に対する児童の健康状態のフィードバックなど多岐にわたる。全ての活動は、ルワンダ人医師の指導の下実施している。看護師を置いて5か月となるが、病気で学校を欠席する児童の数が減り、生徒たちの心身の健康改善と学業向上に寄与している。

シナメニエ・チャールズ学園代表は、「コロナ禍において、生徒達の検温を定期的実施することで、教師側の感染リスクを抑えています。これにより、教師達も安心して授業を行うことができます。ルワンダの子供達に対し、このような唯一無二の機会を与えて下さり、厚く御礼申し上げます。」と、述べられた。



生徒の検温を行う看護師

## 4 友好病院事業

日程	病院名	場所 (2020年度)	患者数 (2020年度)	活動内容
通年	ネパール・AMDA ダマック病院	メチ県 ダマック市	延べ 9万人以上	【現地活動団体】AMDA ネパール支部 【診療科】麻酔科、一般科、外科、産婦人科、小児科、放射線科、整形外科 医、耳鼻科、歯科、眼科 【これまで】1992年：ダマック市で設立。 1996年：AMDA ダマック病院の附属施設としてAMDA 健康科学学院 (AMDA Institute of Health Science) を設立した。 →この学院では看護師コース、医療補助師コース、準助産師コース、地域 医療補助師コース、臨床検査技師コースを実施しており、毎年各コースに 40人の学生が入学し合計200人の学生が勉強している。 2017年10月：在ネパール日本大使館の草の根・人間の安全保障無償資金 協力により、ICUユニットの増設が完成、診療開始。 2018年：内視鏡検査の受診を開始。
通年	ネパール・シッ ダールタ母と子病 院 (通称：ネパール 子ども病院)	南西部ブト ワル市	延べ 6万4千人以上	【現地活動団体】AMDA ネパール支部 【診療科】産婦人科、小児科、新生児科 【これまで】1998年11月：阪神淡路大震災後の日本とネパールの多くの 支援者の協力により設立された、首都以外では唯一の母子専門病院。 2011年8月：新たな周産期病棟の建設を開始、翌年11月に完成した。新 病棟では陣痛室、分娩室、産褥室、手術室、家族計画カウンセリング室、 新生児集中治療室などを備え、妊娠・出産から新生児ケアを総合的に管理 できるよう配慮している。 2020年：延べ6万4千人以上の外来患者、入院患者や救急患者が診療を 受け、毎日平均8人の子供がこの病院で誕生している。今年度は約2374 人の子供が誕生した。
通年	ネパール・ AMDA メチ病院	メチ県メチ ナガル市	約3,500人	【現地活動団体】AMDA ネパール支部、市役所、商工会議所 【診療科】一般科 【これまで】2008年：在ネパール日本大使館、メチナガル市役所、商工会 議所の支援によって設立。 2015年：臨床検査技師のコースを開始。



# 教育支援

AMDA 中学高校生会  
黒潮町オンライン交流会



平和構築

健康増進

教育支援



平和構築プログラム  
バングラデシュからの報告の様子

平和構築プログラムの様子

生活支援



子ども食堂支援  
プラットフォーム  
お米贈呈式

# 1 グローバル人財育成事業

## ■ AMDA 中学高校生会

### 概要

◇実施場所： 岡山県岡山市、オンライン

◇実施時期： 1995年～継続中

◇事業内容：

AMDA 中学高校生会（以下、中高生会）は2020年度、県内中学生高校生38人、県外3人合計41人のメンバーで活動した。リーダー、副リーダーを中心にほぼ毎月定例会を開催、活動の計画や具体的な内容、一つの活動が終われば報告会や振り返りを実施した。しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため対面での会は開かずオンラインで行った。今年度の活動は以下の通り。

### ①高知県黒潮町中学生高校生と防災教育取り組み交流会

◇開催場所： オンライン（AMDA 本部及び高知県黒潮町役場内）

◇開催日： 2020年10月24日

◇参加者：

中高生会4人 黒潮町立佐賀中学、黒潮町立大方中学、高知県立大方高校各6人、他黒潮町、AMDA 関係者

◇参加者の声：

（中高生会）

「黒潮町の中高生との交流会はお互いの活動への理解も深まり、交友関係を築く点からも非常に意義があったように考えている。まさに、自分ごととして災害への対応に取り組んでいる姿勢は見習いたいと感じた。学びを活かして、身近なところから地域、特に中高生の防災・減災に対する意識の向上を図っていきたい。」

（黒潮町大方高校）

「AMDA の中高生や黒潮町の中学生の活動について今回たくさんを知り本当にすごいと思った。一番意味があることは交流したこと自体。これからも一緒に考えていきたい。」

（黒潮町大方中学校）

「今はコロナの影響で対面の交流はできない。リモートでおこなう機会は大切。今回の交流で南海トラフ地震発生時、どのような対応が行われるか知ることができてよかった。」

（黒潮町佐賀中学校）

「AMDA との交流は初めての参加で、今年リモートの交流会だったがとてもよい機会だった。いろいろな人との交流を大切にしていきたい。大方中、高校、保・小・中・高が合同で避難訓練をし、自分だけでなく他の命も気遣うことができる心が生まれると感じた。自分たちも参考にして防災活動を充実させていきたい。」

◇事業内容：

2017年より毎年、黒潮町の中学生高校生との交流会を行ってきたが、今年度は新型コロナウイルス感染予防のためオンラインで実施した。交流会に際し松本敏郎黒潮町長からのご挨拶からスタートした。中高生会からは2019年に東北を訪問し感じたことや2020年の熊本豪雨災害の支援活動に参加した看護師からの報告をまとめ、中高生ができる防災の取り組みをより深く考える必要性を報告した。また黒潮町からは佐賀中学校、大方中学校、大方高校よりそれぞれの取り組みを活発に報告した。今後も SNS などを使い顔の見える関係を継続していく予定。



## ② AMDA 中学高校生会によるオンラインフォーラムの取り組みについて

「AMDA 平和構築プログラム：Online Forum for World Peace from Bangladesh and Japan」

◇開催場所： オンライン（岡山県国際交流センター（岡山市北区）及びバングラデシュ ダッカ）

◇開催日： 2021年2月28日

◇参加者： 中高生会12人、バングラデシュ学生10人 他学生会2人、通訳1人、AMDAバングラデシュ支部、AMDA関係者

◇参加者の声：

（中高生会）

「先輩方の海外での平和構築プログラムの体験を聞いて参加したいと考えていたが都合が合わず、今回オンラインという形ではあるものの初めて参加することができた。やはり、実際に同世代の海外の方との平和に関する交流というのはなかなかできる体験ではなく、自分にとって大きな経験となった。特に互いに自分たちの平和に関する歴史や文化などを共有でき、互いの文化や歴史的な違いなどといった大きな発見をすることができたと思う。歴史や文化が違えど平和を求める思いというものが共通するものであるのだということを強く実感した。」

「新型コロナウイルスにより現地に行き交うことは出来なかったものの、リモートという形でも交流ができたことを本当に嬉しく思った。バングラデシュの学生から地形や気候、問題点や課題を聞いた時に日本と異なる点がたくさんあったが、「自分が思う平和」について聞くと私たち中高生会で出た意見と共通することばかりだった。国は違ってもお互いを尊重し合い、手を取り合って生きる世界を願う気持ちが同じだということを知れたことがなにより嬉しかった。この思いが同じということは世界というとても広い空間であってもいつかはみんなが願う平和を実現できると思う。」

（バングラデシュの学生たち）

「この現在の新型コロナウイルスの状況で私たちが集合することは不可能だったが、AMDA本部の段取りは素晴らしかった。日本の文化はとても魅力的で、AMDAの学生はとても活発だった。私は多くの貴重なことを学ぶことができた。今回のAMDA平和構築プログラムをきっかけに、AMDAバングラデシュ学生クラブが結成され、「開かれた相互扶助」の理解をもって活動を開始した。日本とバングラデシュのように、国家間の真の平和は、人々の魂の中に真の平和があるときにのみ起こると思う。」

「AMDA平和構築プログラムに参加できて本当に良かった。このプログラムでたくさんの日本人学生と出会い、彼らの文化を学ぶことができた。この機会を与えてくれたAMDAバングラデシュ支部に感謝。今後、AMDAバングラデシュ支部とのセミナーにもっと参加したいと思う。」

◇事業内容：

中高生会はスリランカでの平和構築活動に参加し今年度はバングラデシュでの活動を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため現地の訪問を中止しオンラインの活動に切り替えた。活動内容としてまず自己紹介を兼ね平和についての思いをそれぞれ絵で紹介。自分がそれぞれの国の歴史や文化など紹介しあう。そして平和についての考えや今後の世界平和についてお互いプレゼンテーションで理解しあい今後につなげた。

## ■ AMDA 菅波理事長、AMSA Japan メンバーとオンラインミーティング

◇開催場所： オンライン

◇開催日： 2020年9月29日

◇参加者： （AMDA本部）菅波 茂 / AMDA 理事長、難波 妙 / AMDA 理事  
（AMSA Japan）メンバー約10人

◇参加者の声：

（AMSA Japan 代表 宮井 秀彬さん（当時自治医科大4年））



「話を聞いているうちに、みんなのめり込んでいっている感じが感じられましたし、菅波先生もみんなに質問しながら話を進めてくださったので、聞き手の役員も楽しみながら聞いていたと感じています。」

#### ◇事業内容：

9月29日、AMSA Japanのメンバー約10人が菅波理事長とオンラインでミーティングを行った。AMSA（アジア医学生連絡協議会）は1980年に菅波理事長らが設立し、アジアを中心に各国の医学生が保健医療の向上を目指して集う団体。今回のミーティングでは各メンバーの自己紹介の後、菅波理事長が22歳のころ、大学紛争の嵐が全国に吹き荒れた間、1年間休学して、紛争前の平和な時代のアジアを放浪する中で、それぞれの国の環境や医療事情を視てきた経験が今のAMDAの災害支援に活かされていることなどを紹介した。その上で、これまで40年に渡って培ってきた自らの学びから得られた、「災害支援のコンセプト：ネガティブリスト」や「援助を受ける側にもプライドがある」など、人道支援活動の物の見方や考え方を、様々な切り口でメンバーに語りかけた。

## ■ AMDA インターン

### ①四宮 愛子さん（徳島大学 学生）

◇実施場所： オンライン

◇実施時期： 2020年8月24日～9月30日

◇インターンの声：

「AMDAを知ったきっかけは、徳島大学にあるA-TIMSというサークルに参加したことです。このサークルは国際医療や国際協力に興味がある医学部生が参加するグループです。そこでは、国際医療に携わる様々な人々の話を聞く機会があり、その一つがAMDAでした。現在学生という立場の私でも、何か国際協力や災害医療に携わることができないかと考え、夏休みの長期休暇を利用して、インターンシップに参加しました。携わった業務は、国際フェスタでのAMDAの広報活動、防災関連のスライド作成やインド関係の記事を日本語へ翻訳（ウェブ用）することでした。短い期間でしたが、AMDAのインドでの支援や日本での災害支援、活動意義について知ることができました。また、スライドを作成することによって日本の防災について改めて勉強する機会となりました。自分の知識や考えを広げることができました。自分のペースで無理なく参加させていただき、感謝しています。また機会があれば共に活動したいと考えています。」



### ②道広 咲さん（就実大学経営学部 学生）

◇実施場所： AMDA 事務所及びオンライン

◇実施時期： 2020年9月14日～11月19日（内35日間）

◇インターンの声：

「今回は新型コロナウイルス感染防止対策として、週1日のAMDA事務所での活動以外はテレワークでインターンとして入りました。「令和2年7月豪雨（熊本県球磨地方）被災者緊急支援活動」の報告書作成に加え、AMDAについて週一回SNSで配信すると同時に、AMDAホームページ内の「ボランティア募集ページ作成」も担当させていただきました。」

今までの経験を活かしつつも、状況に応じて支援を受ける側に寄り添い、臨機応変に対応することの大切さや、色々な人が協力して活動を行う上で「パートナーシップ」がいかに重要であるか、外部の人に分かりやすくAMDAの活動、それに対する思いを伝えることの難しさなど、多くのことを知り、学びました。この2か月で、今まで縁のなかったボランティアのことや、災害支援の実態に触れることで沢山の「知らなかった世界」に出会い、今まで何事にも消極的だった自分の変化も感じる事ができました。」



## 2 こども食堂支援プラットフォーム

### ■ AMDA こども食堂支援プラットフォーム

#### 概要

◇実施場所： 岡山県内

◇実施時期： 通年実施

◇事業内容：

2017年12月、産官学民で組織する「AMDA こども食堂支援プラットフォーム」を設立し2020年度も継続し支援活動を行った。こども食堂への支援は食材の提供だけでなく、子どもたちが将来社会参加できる機会や環境を整え、子どもの意欲形成に繋げる活動を目指している。ただし、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面での活動はできなかった。食糧の支援については継続しこども食堂の運営に取り組む希望の団体へ次のような活動を行った。

#### ①お米の配布（贈呈）

◇実施場所： AMDA 本部・きらめきプラザ

◇実施日： 4回（2020年7月3日、9月25日、12月17日、2021年3月12日）

◇受益者数： 11団体、延べ1,235人（7月、9月、12月、3月配布分一部）

※2021年3月配布分は新型コロナウイルス感染予防で活動自粛の団体もあり、活動団体のみ

◇事業内容：

希望されたこども食堂を運営されている11団体へ食材提供として延べ2,320Kgを年4回に分け配布した。

特に12月の配布については17日、きらめきプラザで贈呈式を開催した。こども食堂4団体の他、AMDA米の備蓄や提供にご協力いただいている十字屋グループからも衣笠伸典総務部長、AMDA支援農場代表世話人 竹内洋二氏らのご出席をいただきご挨拶をいただいた。またその際プラットフォーム世話人会 友實武則赤磐市長、副代表 田原隆雄備前市長（当時）、副代表 草加信義和気町長よりメッセージをいただいた。

米の贈呈について受益者（こども食堂団体）からは「新型コロナウイルスの影響で参加人数が減っている。新型コロナウイルスの感染者が増えている時は食堂ではなく弁当を作り、配布している。仕事も忙しい中、多様な内容のお弁当は本当にうれしい、ありがたい。」という声もある。また、「こんな時だからこども食堂も様々な工夫をし継続していきたい。」などの感想をいただいた。

#### ②食料品の贈呈、配布

◇実施場所： AMDA 本部（贈呈式、配布）

◇実施日： 贈呈式2月5日、配布日2月10日

◇贈呈式参加者： 岡山ハーモニーライオンズクラブ関係者2人、直島 克樹  
AMDA こども食堂支援プラットフォーム世話人会事務局長

◇受益者数： 6団体

◇事業内容：

岡山ハーモニーライオンズクラブ様から今回3回目となる食料支援をいただいた。毎年、ふるさと納税返礼品の事業を利用され今年度は全国からの美味しい食料品のご支援をいただいた。内容はカレー、パスタ、アップルジュース、ツナ缶、イワシ缶、だし、ドレッシング、トマトジュース、ケチャップ、ピューレ、コーンなど12種目を用意され、こども食堂6団体へ同等に分け配布した。ある団体は種類の多さに驚き、みんな喜んでいたと受益者から声があがっていた。各団体ではそれぞれに調理をする団体もあるが、コロナ禍のため希望する家庭に食材を配布している団体もある。



### ③肌着の贈呈、配布

◇実施場所： AMDA 本部（贈呈式、配布）

◇実施日： 12月16日

◇物資に関するご協力者（敬称略）： ゲンゼラブアース倶楽部

◇受益者数： 2団体（NPO法人ハーモニーネット未来での受益者110家庭、NPO法人オレンジハートの受益者300家庭）

◇事業内容：

ゲンゼラブアース倶楽部様より主に小児用の肌着のご寄付をいただき、希望されるこども食堂2団体へお渡しした。肌着の内容は男児用ボクサーブリーフ182組、大人用ブリーフ245枚、女児用ショーツ390組。寄付のあったゲンゼの肌着をプレゼントすることで家計の助けにしてもらう目的とした。お母さんたちは、「ゲンゼの肌着は生地がしっかりしているので嬉しい。」「ちょうどサイズが合わなくなっていたので良かった。」「子どもが成長してすぐ肌着がだめになる。ありがとうございます。」と、感想を言われていた。



## ③ その他

### ■インド・ブッダガヤの学校の生徒に AMDA 賞を授与

◇実施場所： ビハール州ブッダガヤ

◇実施日： 2020年12月25日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA 賞委員会5人、ジーナアミタツプ無償寄宿学校

◇受益者数： 10人

◇受益者の声：

「ジーナアミタツプ無償寄宿学校で10年生まで勉強し、2019年から学校の支援でカレッジに通っています。AMDA 賞をいただき、とても光栄です。私の家族の収入が5000ルピー/月と少ないため、参考書を買うことができませんでした。

いただいた500ルピーで、もうすぐ受ける試験の参考書を購入しました。ありがとうございました。」

◇事業内容：

2020年12月25日、AMDAはインド最貧州の1つであるビハール州ブッダガヤにあるジーナアミタツプ無償寄宿学校の生徒10人に「AMDA賞」を授与した。この学校では、低カーストの貧困世帯（世帯収入が月約4,000～5,000ルピー[日本円で約5,000～7,000円]）出身の子どもたち約120人を支援している。

学校の事務局長、理事、校長先生、地元ロータリークラブメンバーなど5人からなるAMDA賞委員会を選出した生徒男女10人に「AMDA賞」トロフィーと500ルピー（約710円）が贈られた。各受賞者は参考書、文房具を購入するなど、勉学に必要な費用の補填に、この500ルピーを使用する予定。

学校の事務局長であるアナンド・ビクラム氏は、「低カーストの貧困世帯出身であり、成績優秀、授業の出席率も良く模範となる生徒の中でも、最終学年である12年生から10人を選びました。子どもたちも本当に喜んでいました。今後の励みになると思います。今、インド全土で保育園から5年生までの子どもたちは自宅学習を強いられています。その子たちのために私たちの学校では、オンライン授業や学校から先生が子どもたちの住む地域に出向いて授業を行う場合もあります。6年生から12年生の生徒は学校に来ることが許されており、勉学を続けている状況です。今回「AMDA賞」を受賞した生徒にはこのような状況下でも努力を続け自分の目標を達成してもらいたいと思っています。」と語った。

AMDAが最初にジーナアミタツプ無償寄宿学校と一緒に活動したのは、2018年のこと。日本のAMDA支援者様からご寄付いただいた衣類などを現地の人たちに配布したことがきっかけだった。加えて、2018・19年に地元ブッダガヤロータリークラブと協力してヘルメットの配布を行った際、地元ロータリークラブとAMDAとのつなぎ役となったのがこの学校の事務局長であるビクラム氏だった。このようなご縁から、コロナ禍でも挫けず勉学を続けている生徒に「AMDA賞」を授与することができた。

# 生活支援

## ■第2回日越国際シンポジウム

新型コロナパンデミック等によるベトナム技能実習生等失職・緊急対応プログラム～家族のように助け合う～

- ◇開催場所： 岡山国際交流センター
- ◇開催日： 2021年3月29日
- ◇主催： 一般財団法人国際医療貢献プラットフォーム
- ◇共催： アイ・エイチ・ディ協同組合、ICS協同組合、AMDA
- ◇参加者数： 57人
- ◇事業内容：



2021年3月29日、新型コロナウイルスや様々な影響により、ベトナム技能実習生の失職という緊急事態に対応すべく、「第2回日越国際シンポジウム 新型コロナパンデミック等によるベトナム技能実習生等失職・緊急対応プログラム～家族のように助け合う～」を開催した。

当日は政治・行政・経済界など多方面から合計57人がご出席。各々の立場からの知見・経験など共有いただき、(一財)国際医療貢献プラットフォーム代表理事であり、AMDA理事長でもある菅波茂より、①宿舍、②食料、③医療、④再就職を柱とする緊急対応プログラムと、4月1日より5カ月間の実施を発表。更に、法的にも社会的にも問題の多い技能実習生の現状に対し、岡山県国際貢献推進条例に基づいた7者連携岡山モデル、相談日や人道支援議員フォーラムの設立についても言及した。参加者から同意の拍手をいただき、閉会となった。

## ■AMDA フードプログラム

日程	プロジェクト名	活動場所 (2020年度)	活動内容
2012年 4月～ 継続中	AMDA フード プログラム	1) 岡山県 新庄村  2) インドネシア マリノ村	<p>【活動概要】2012年4月、「食は命の源」をコンセプトに、アジア有機農業の普及を目的としたAMDAフードプログラムを開始。同年度より岡山県真庭郡新庄村の野土路地区に農場を開設、無農薬など有機稲作栽培を中心とした農業を実施してきた。今までにインドネシアやフィリピンからの農業研修を受け入れてきた。</p> <p>1) 岡山県新庄村 【協力団体】NPO法人オレンジハート 【実施時期】2020年4月～ 【活動内容】2012年開設以降、AMDA連携野土路農場では、アヒルなどを使い無農薬でコシヒカリやヒメノモチ、野菜を栽培してきた。2019年度に一旦休止するものの、2020年度よりNPO法人オレンジハートとの共同事業として再開。コシヒカリ、ヒメノモチの無農薬米・低農薬米を栽培した。収穫後、天日干しすることでうま味を増した米などを同年、AMDAの活動に関係する大使館・関係各所に贈呈した。</p> <p>2) インドネシア・マリノ村 【現地活動団体】AMDAインドネシア支部、現地農家14世帯 【背景】岡山県・新庄村野土路農場で半年間研修を受けたイカワティ氏と地元の若手農家が2014年、有機栽培にて米を作り始めた。 【活動内容】新型コロナウイルスの拡大により各方面で影響が出ているインドネシアだが、AMDAマリノ農場では現地生産者がこれまでと変わらず安全な農作物を作り続けられるよう尽力している。村内の有機農家の数は14軒、野菜や米を栽培して現在に至る。2018年度から始まった赤米の生産も軌道に乗り、流通面においても少しずつ販路を拡げている。</p>



← 新庄村  
→ マリノ村



## 特定非営利活動法人アムダ (AMDA) 団体概要

所在地 〒 700-0013 岡山県岡山市北区伊福町 3 丁目 31-1  
設立年月日 1984 年 8 月  
国連経済社会理事会「総合協議資格」取得 2006 年  
認定 NPO 法人に認証 2013 年 5 月 8 日付

### AMDA グループ構成団体

特定非営利活動法人アムダ: AMDA  
AMDA インターナショナル (任意団体)  
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構  
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター  
アムダ兵庫 (任意団体)

海外活動 緊急医療支援、難民医療支援、復興支援、合同医療ミッション、  
スポーツ親善交流、グローバル人財育成、フードプログラム、  
セミナー開催 など

活動国 日本、ネパール、インドネシア、ハイチ、モンゴル、インド、ルワンダ、フィリピン、  
バングラデシュ、カンボジア、ホンジュラス、アフガニスタン 他

国内活動 緊急医療支援、復興支援、フードプログラム、こども食堂支援、出張講演、  
大学講義受託、活動報告会・セミナー開催、  
AMDA 中学高校生会、イベント参加、  
南海トラフ災害対応医療チーム派遣準備 など

AMDA 支部 沖縄支部、神奈川支部

AMDA クラブ 鎌倉、高知、玉野、福山、竹原、神女 (神戸女子大学) 各クラブ

スタッフ 常勤 7 人 非常勤 3 人 派遣 3 人

会員数 702 人

ER ネットワーク登録数 613 人

2021 年 6 月 30 日現在

## 特定非営利活動法人 アムダ (AMDA) 役員

理事長	菅波 茂	医師	AMDA グループ代表
副理事長	菅波 知子	医師	
理事	大土 吉子	元岡山県生活環境政策スタッフ	
理事	佐藤 拓史	医師	東亜大学医療学部教授 モンゴル国立医科大学招聘教授
理事	中西 泉	医師	医療法人社団慶泉会町谷原病院 理事長
理事	難波 妙	特定非営利活動法人アムダ	GPSP 支援局長
理事	難波比加理	特定非営利活動法人アムダ	財務部長
理事	野島 治	元倉敷市教育委員会	嘱託啓発指導員・小学校校長
監事	渡丸 弘之	公認会計士	

2021 年 6 月 30 日現在  
(理事名 五十音順)



## 連携協力協定調印

### ■国内連携協力協定調印

- |                  |            |
|------------------|------------|
| ・特定非営利活動法人あゆみ    | 2020年7月3日  |
| ・公益社団法人岡山県柔道整復師会 | 2020年8月28日 |
| ・ダイヤ工業株式会社       | 2021年2月18日 |

## 国内の動き

### ■大学・専門学校等講義

ノートルダム清心女子大学、朝日医療大学校、玉野総合医療専門学校、順正高等看護福祉専門学校、岡山県立大学大学院、相生市看護専門学校、岡山大学、福山市医師会看護専門学校、山口県立大学、美作市スポーツ医療看護専門学校、山陽学園大学大学院、岡山医療福祉専門学校、大学コンソーシアム岡山、旭川荘厚生専門学院（実施日順）

### ■講演

岡山市立平津小学校、倉敷青陵高校、青年海外協力隊広島県OV会、岡山県公立小中学校教頭会、徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校、岡山県倉敷古城池高等学校、岡山市立吉備公民館、徳島県小松島市小松島中学校、阿波市防災士会、倉敷翠松高等学校、岡山県柔道整復師会、岡山県立津山東高校、岡山市立津島小学校、日本国際看護学会、高梁城南高校研究会人権教育部備中支部、岡山県立岡山操山中学校、災害支援鍼灸マッサージ師合同委員会、岡山県立倉敷中央高等学校、岡山市立富山公民館、岡山ハーモニーライオンズクラブ、創志学園高等学校、Kagamino Youth Circle（実施日順）

### ■研修受け入れ

- ・なし

### ■インターンシップ受け入れ

- ・四宮 愛子さん（2020年8月24日～9月30日）
- ・道広 咲さん（2020年9月14日～11月19日）

### ■主催イベント

- ・高知大学生のサークルと南海トラフについてのオンライン交流（2020年6月12日）
- ・AMDA 中学高校生会黒潮町中学生高校生との防災交流会（2020年10月24日）
- ・フィリピン台風19号・22号に対する街頭募金活動（2020年11月17日）
- ・阿波市との協定改定についてのオンライン会議（2020年11月18日）
- ・ホンジュラスハリケーンに対する街頭募金活動（2020年12月10日）
- ・フィリピン台風19号・22号緊急支援 オンライン報告会（2020年12月12日）
- ・美馬市保健所とオンライン交流（2021年1月27日）
- ・AMDA 中学高校生会バングラデシュ学生との平和構築に関するオンラインフォーラム（2021年2月28日）
- ・まちかどトーク（2021年3月8日）
- ・東日本大震災10年AMDA オンライン交流会（2021年3月26日）

### ■共催イベント

- ・第2回日越国際シンポジウム（主催：（一財）国際医療貢献プラットフォーム）（2021年3月29日）

### ■主な参加イベント

- ・徳島県主催コロナ禍の「避難所運営・体験訓練」（2020年8月31～9月1日）
- ・おかもまこーぷ主催「忘れない3.11」東日本大震災復興支援交流会～そして未来へ～（2021年2月18日）
- ・第64回洋蘭展（2021年2月19日～21日）
- ・「食」をテーマに考える国際協力イベント（2021年2月27日）
- ・徳島西部災害医療代表者Webセミナー（2021年3月18日）

活動計算書

令和 2年 4月 1日 から令和 3年 3月 31日 まで

特定非営利活動法人 アムダ  
(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	420,000	
医師会員受取会費	855,000	
一般会員受取会費	3,200,000	
学生会員受取会費	9,000	
法人会員受取会費	900,000	
賛助会員受取会費	410,000	5,794,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金	68,143,816	68,143,816
3. 受取助成金等		
受取民間助成金	521,877	
受取地方公共団体補助金	93,000	614,877
4. 事業収益		
事業収益	1,980,115	1,980,115
5. その他収益		
受取利息	160,909	
為替差益	929,792	
雑収益	30,000	1,120,701
経常収益計		77,653,509
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	22,986,141	
法定福利費	3,098,553	
福利厚生費	624,806	
派遣費	1,578,930	
人件費計	28,288,430	
(2) その他経費		
業務委託費	3,511,000	
諸謝金	44,547	
印刷製本費	3,920,202	
会議費	177,535	
旅費交通費	2,545,212	
通信運搬費	3,553,714	
消耗品費	11,866,100	
渉外費	216,752	
修繕費	29,160	
水道光熱費	222,812	
地代家賃	1,787,372	
賃借料	3,116,963	
減価償却費	684,575	
保険料	212,998	
諸会費	10,000	
租税公課	33,325	
研修費	10,000	
広告宣伝費	15,496	
支払手数料	186,472	
支払義援金	757,900	
為替差損	80,900	
燃料費	46,807	
医療消耗品費	3,818,664	
栄養給食費	1,222,698	
雑費	25,200	
その他経費計	38,096,404	
事業費計		66,384,834

科 目	金 額		
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	4,446,141		
法定福利費	671,294		
福利厚生費	241,047		
派遣費	2,394,030		
人件費計	7,752,512		
(2) その他経費			
業務委託費	1,254,000		
印刷製本費	123,550		
旅費交通費	118,225		
通信運搬費	1,098,275		
消耗品費	703,451		
渉外費	50,063		
修繕費	83,090		
水道光熱費	252,382		
賃借料	3,121,515		
減価償却費	132,262		
保険料	82,380		
諸会費	10,000		
租税公課	117,686		
支払手数料	742,215		
新聞図書費	40,800		
燃料費	32,823		
雑費	109,098		
その他経費計	8,071,815		
管理費計		15,824,327	
経常費用計			82,209,161
当期経常増減額			△ 4,555,652
Ⅲ 経常外収益			
1. その他経常外収益			
金評価益	698,720	698,720	
経常外収益計			698,720
Ⅳ 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			△ 3,856,932
当期正味財産増減額			△ 3,856,932
前期繰越正味財産額			431,346,817
次期繰越正味財産額			427,489,885

## 貸借対照表

令和 3年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人 アムダ  
(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	341,908,471		
棚卸資産	3,628,607		
前払金	125,000		
前払費用	418,800		
仮払金	2,086,734		
流動資産合計		348,167,612	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物	5,971,662		
車両運搬具	2,027,764		
什器備品	5,845,665		
建物附属設備	719,250		
減価償却累計額	△ 9,471,210		
有形固定資産計	5,093,131		
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
リサイクル預託金	19,530		
敷金	60,000		
差入保証金	16,000		
東日本震災特定預金	38,650,471		
金地金	10,646,240		
プロジェクト準備金	28,597,952		
投資その他の資産計	77,990,193		
固定資産合計		83,083,324	
資産合計			431,250,936
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,619,305		
前受金	60,000		
預り金	81,746		
流動負債合計		3,761,051	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			3,761,051
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		431,346,817	
当期正味財産増減額		△ 3,856,932	
正味財産合計			427,489,885
負債及び正味財産合計			431,250,936

財 産 目 録

令和 3年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人 アムダ  
(単位：円)

科 目		金 額	
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金			
	現金	55,522,334	
	普通預金	231,068,402	
	定期預金	10,000,000	
	外貨預金	45,317,735	
	棚卸資産	3,628,607	
	前払金	印刷製本費	125,000
	前払費用	賃借料	418,800
	仮払金	東日本その他海外事業	2,086,734
	流動資産合計		348,167,612
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
	建物	5,971,662	
	車両運搬具	2,027,764	
	什器備品	5,845,665	
	建物附属設備	719,250	
	減価償却累計額	△ 9,471,210	
	有形固定資産計	5,093,131	
(2) 無形固定資産			
	無形固定資産計	0	
(3) 投資その他の資産			
	リサイクル預託金	19,530	
	敷金	60,000	
	差入保証金	16,000	
	東日本震災特定預金	38,650,471	
	金地金	10,646,240	
	プロジェクト準備金	28,597,952	
	投資その他の資産計	77,990,193	
	固定資産合計		83,083,324
	資産合計		431,250,936
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金			
	給与	2,171,781	
	法定福利費	300,641	
	福利厚生費	49,000	
	派遣費	262,851	
	業務委託費	150,000	
	旅費交通費	11,630	
	通信運搬費	577,940	
	消耗品費	64,562	
	賃借料	22,100	
	雑費	8,800	
	前受金	60,000	
	預り金	81,746	
	流動負債合計		3,761,051
2. 固定負債			
	固定負債合計		0
	負債合計		3,761,051
	正味財産		427,489,885

- 1、重要な会計方針  
 計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっております。  
 (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
 最終仕入原価法による原価法により評価を行っています。  
 (2) 固定資産の減価償却の方法  
 有形固定資産については間接法による定額法により減価償却を行っています。無形固定資産については直接法による定額法により減価償却を行っています。  
 (3) 消費税等の会計処理  
 消費税等の会計処理は、税込方式によっております。
- 2、事業別損益の状況

科 目	低開業地域等における 社会開業事業	緊急人道支援事業	次等救護事業 (東日本被災事業)	平和構築モデルの開発 と運営に関する事業	各種会議、講演会、 講座等の企画運営事業	各種調査研究、教育、 研修事業	情報誌並びに対外的 広報誌及び書籍の刊行	有機農業及び有機農業 の推進に関する事業	事業部門	管理部門	合 計
<b>I 経常収益</b>											
1. 受取収益											
正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	420,000
医師会受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	855,000
一般会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,200,000
学生受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,000
法人会受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	900,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	410,000
2. 受取寄附金	1,259,902	31,231,679	338,349	0	0	438,000	0	360,000	33,627,950	34,515,886	68,143,816
3. 受取助成金等	12,047	252,451	43,819	0	0	13,560	0	0	321,877	200,000	521,877
受取民間助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	93,000
受取地方公共団体補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 事業収益	0	10,000	0	0	0	384,200	1,585,915	0	1,980,115	0	1,980,115
5. その他収益	35,572	187	0	0	0	0	0	0	66,514	160,909	160,909
為替差益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	863,278	863,278
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30,000	30,000
経常収益計	1,307,521	31,494,317	382,188	0	0	835,760	1,585,915	390,755	35,996,436	41,657,073	77,653,509
<b>II 経常費用及び管理費</b>											
(1) 人件費	919,000	352,200	2,220,000	0	0	44,547	19,800	0	3,511,000	1,254,000	4,765,000
給料手当	0	20,405,261	1,186,776	0	0	1,394,104	0	0	22,986,141	4,446,141	27,432,282
法定福利費	0	2,913,781	100,308	0	0	84,464	0	0	3,098,553	671,294	3,769,847
福利厚生費	0	604,337	100,000	0	0	20,469	0	0	624,806	241,047	865,853
派遣費	922,615	328,183	154,018	0	0	174,114	0	174,114	1,578,920	2,394,030	3,972,960
人件費計	922,615	24,251,562	1,441,102	0	0	1,499,037	0	174,114	28,288,430	7,752,512	36,040,942
(2) その他経費	172,667	148,300	0	0	0	6,469	3,699,345	0	3,970,202	123,550	4,043,752
印刷費	22,766	148,300	0	0	0	6,469	0	0	177,535	0	177,535
会議費	75,498	2,040,824	155,591	0	0	252,970	5,470	14,859	2,585,212	118,223	2,663,437
通信運搬費	109,803	1,864,107	249,961	0	0	7,397	1,316,537	5,709	3,553,714	1,098,275	4,651,989
消耗品費	333,049	11,340,857	122,576	0	0	36,435	33,183	0	11,866,100	703,451	12,569,551
渉外費	0	197,586	7,076	0	0	12,090	0	0	216,752	50,063	266,815
修繕費	0	0	29,160	0	0	0	0	0	29,160	83,090	112,250
水道光熱費	44,775	52,217	125,820	0	0	0	0	0	222,812	252,382	475,194
代客費	1,787,372	0	0	0	0	0	0	0	1,787,372	0	1,787,372
賃借料	0	1,205,498	1,901,595	0	0	9,870	0	0	3,116,963	3,121,515	6,238,478
減価償却費	0	67,468	684,575	0	0	23,100	0	0	212,998	82,380	295,378
保険料	0	10,000	122,430	0	0	0	0	0	10,000	10,000	20,000
諸会費	0	14,825	18,500	0	0	0	0	0	33,325	0	151,011
租税公課	0	10,000	0	0	0	0	0	0	10,000	0	10,000
研修費	0	10,000	0	0	0	0	0	0	10,000	0	10,000
広告宣伝費	0	10,133	0	0	0	0	5,363	0	15,496	0	15,496
支払手数料	43,208	115,194	6,600	0	0	5,660	4,310	11,500	186,472	742,215	928,687
支払手数料	0	750,000	0	0	0	7,900	0	0	757,900	0	757,900
為替差損	51,671	29,229	0	0	0	0	0	0	80,900	0	80,900
新聞図書費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40,800	40,800
燃料費	0	46,807	0	0	0	0	0	0	46,807	0	46,807
医療消耗品費	527,945	3,290,719	0	0	0	0	0	0	3,818,664	0	3,818,664
栄養給食費	496,273	726,425	0	0	0	0	0	0	1,222,698	0	1,222,698
雑費	0	25,200	0	0	0	0	0	0	25,200	109,098	134,298
その他経費計	4,584,027	22,345,779	5,643,834	0	0	406,638	5,084,008	32,068	38,096,404	8,071,815	46,168,219
経常費用計	5,506,642	46,597,341	7,084,986	0	0	1,905,675	5,084,008	206,182	66,384,834	15,824,327	82,209,161
当期経常増減額	△ 4,199,121	△ 15,103,024	△ 6,702,818	0	0	△ 1,069,915	△ 3,498,093	184,573	△ 30,388,398	25,832,746	△ 4,555,652
<b>III 経常外収益</b>											
1. その他経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	698,720	698,720
金評価益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	698,720	698,720
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	698,720	698,720
<b>IV 経常外費用</b>											
1. その他経常外費用	△ 4,199,121	△ 15,103,024	△ 6,702,818	0	0	△ 1,069,915	△ 3,498,093	184,573	△ 30,388,398	26,531,466	△ 3,856,932
税引前当期正味財産増減額	△ 4,199,121	△ 15,103,024	△ 6,702,818	0	0	△ 1,069,915	△ 3,498,093	184,573	△ 30,388,398	26,531,466	△ 3,856,932
前期繰越正味財産	△ 31,121,730	△ 39,506,343	45,353,289	△ 14,544,192	△ 7,601,165	△ 46,982,285	△ 20,337,030	△ 24,408,301	△ 139,127,577	570,474,574	431,346,817
前期繰越正味財産	△ 35,320,851	△ 54,609,367	38,650,471	△ 14,544,192	△ 7,601,165	△ 48,032,200	△ 23,835,123	△ 24,223,728	△ 169,516,155	597,006,040	427,489,885

3. 用途が制約された寄附金等の内訳  
 用途が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。  
 当法人の正味財産は427,489,885円ですが、そのうち67,248,423円は用途が特定されています。  
 したがって用途が制約されていない正味財産は360,241,462円です。

(単位：円)

内 容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備 考
東日本救援事業	45,353,289	382,168	7,084,986	38,650,471	東日本復興支援事業に使用しました
プロジェクト準備金	30,385,324	0	1,787,372	28,597,952	土柳使用料としてインド事業に使用しました (2017年から毎年20年間、取り崩していく計画)
合 計	75,738,613	382,168	8,872,358	67,248,423	

4. 固定資産の増減内訳

科 目	期首取得価額	取 得	減 少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物	5,971,662	0	0	5,971,662	1,933,324	4,038,338
建物附属設備	719,250	0	0	719,250	518,032	201,218
車両及び運搬具	2,027,764	0	0	2,027,764	1,669,525	358,239
器具及び備品	4,041,921	1,803,744	0	5,845,665	5,350,329	495,336
一括償却資産	1,625,380	0	1,625,380	0	0	0
投資その他の資産						
リサイクル預託金	19,530	0	0	19,530	-	19,530
敷金	60,000	0	0	60,000	-	60,000
差入保証金	16,000	0	0	16,000	-	16,000
東日本震災特定預金	45,353,289	382,168	7,084,986	38,650,471	-	38,650,471
金地金	9,947,520	698,720	0	10,646,240	-	10,646,240
プロジェクト用特定資産	30,385,324	0	1,787,372	28,597,952	-	28,597,952
合 計	100,167,640	2,884,632	10,497,738	92,554,534	9,471,210	83,083,324

5. 借入金を増減内訳

該当ありません。

6. 役員及びその近親者との取引の内容  
 役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

科 目	計算書類に 計上された金額	内役員及び 近親者との取引
(活動計算書)		
受取寄附金	68,143,816	9,000
貸借料(管理費)	3,121,515	1,990,560
貸借料(事業費)	3,116,963	649,440
活動計算書計	74,382,294	2,649,000
(貸借対照表)		
前払費用	418,800	220,000
貸借対照表計	418,800	220,000

7. 事業費と管理費の按分方法  
 事業本部の共通する経費のうち、従事割合の高い東日本・緊急救援事業に関しては給料手当及び派遣費、法定福利費、水道光熱費、通信運搬費、賃借料を従事割合に基づいて按分しています。



フィリピン台風 22 号 被災者緊急支援活動 配布会場の子どもたち



ホンジュラス・ハリケーン被災者復興支援 屋根改修工事中の小学校の児童

2020 年度、新型コロナウイルスの感染拡大の状況下で、AMDA 本部と各国支部は「ローカルイニシアチブ」のもと、多種多様な支援活動を実施。自然災害の被災者だけでなく、新型コロナウイルス対応に追われる医療・福祉施設、コロナ禍で収入を失った方などに対する食料や物資の提供、医療支援などを、これまで培ってきた「尊敬と信頼のパートナーシップ」を生かして多くの地元協力者らと一緒に行いました。

コロナ禍においても尚、AMDA の活動にご支援いただいている皆様に改めて感謝申し上げます。今後も「相互扶助」の精神のもと、支援を続けてまいります。引き続き何卒ご支援をよろしくお願いいたします。